

協働ワーキング 提案概要書

■ 高齢者を地域で支える仕組みづくり

- 1. 高齢者① チーム … P 2
- 2. 高齢者第2グループ … P 7

■ 子どもの成長を地域で支える仕組みづくり

- 1. 切れ目ない チーム … P 17
- 2. くるキッズ チーム … P 23
- 3. チーム Child … P 25
- 4. 皆の力をかりよう チーム … P 28

■ 市民参画による久留米市の魅力発信の仕組みづくり

- 1. ちゃりんこレンジャー チーム … P 31
- 2. マーガレット チーム … P 39
- 3. ③多様な主体が魅力を発信する チーム … P 46



次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

高齢者①チーム

提出年月日	平成 26 年 8 月 28 日	ワーキング テーマ	高齢者の生きがいつくり・健康づくりを支える
リーダー 氏名	保坂 昌孝	ワーキングメンバー 氏名	綾戸麗子・江上憲一・芹田隆子・辻摩夕実 松田眞由美・野田国広・河原菊子
①	提案分野 [対応すべき課題]	高齢者のふれあい交流支援	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が地域の身近な所で交流する場所が少ない。 ・ 高齢者の交流を支援するボランティアや担い手が少なく、高齢者が高齢者を支援する等、支援する側（地域団体や個人）の負担が大きい。 ・ 地域で呼びかけても交流に参加されない方や参加したくてもできない方がいる。 	
	達成を目指す 姿・状況	高齢者が身近な場所でふれあい交流することで、住み慣れた地域において笑顔で安心、安全に暮らすことができる。	
②	提案する取り 組み(事業)	高齢者の交流の場の設置（ぶらりよってこカフェ プロジェクト）	
	取り組み（事 業）の内容	<p>【取り組み①】 支え合いの地域づくり</p> <p>市民・校区コミュニティ組織・民生委員・自治会・関係団体・行政が協働し地域住民で互いに支え合い、地域特性に応じた交流の場づくりを支える体制の構築を目指します。</p> <p><u>1、ふれあい交流コーディネーターの設置</u></p> <p>地域特性にあった交流の場の設置に向け、立ち上げや運営などサポートを実施します。 （構成員は市民、校区コミュニティ組織、民生委員、自治会、関係団体、行政等）</p> <p><u>2、モデル校区の設置</u></p> <p>市内の校区コミュニティ組織にプロジェクトの説明をおこない、賛同いただける校区をモデルとして選出します。 （選出基準：高齢化率の高い校区や住民間交流が希薄化している校区など）</p> <p>【取り組み②】 気軽に集まれる場所づくり</p> <p>身近な地域の中に、誰もが気軽に参加できる場をつくり、高齢者だけでなく世代間交流も含めた地域のつながりや絆が育まれる場づくりを目指します。 （目標：各自治区単位に1カ所設置）</p> <p><u>1、地域の資源発掘及び利用促進</u></p> <p>地域にある空き家や自治公民館、介護福祉施設や企業や商業施設等、交流の場として活用できる資源を発掘し、その利活用を図ります。身近な地域にある資源を活用することで、地域の活性化につなげます。</p> <p><u>2、ふれあいマップの作成</u></p> <p>より多くの人が交流の場を利用できる様に、身近な地域にあるふれあい交流の場を掲載した地図を作成します。</p>	

②	提案する取り組み(事業)	<p>【取り組み③】 高齢者を支える人財を育む</p> <p>高齢者のふれあい交流を支える人手不足の問題を解消するため、ボランティア活動に従事する者へ一定の奨励金を交付し、支援者の負担感の軽減を図り、活動意欲の促進につなげます。また、高齢者のふれあい交流を支える地域の多様な人財を活用できる体制の構築を目指します。</p> <p><u>1、よかよか介護ボランティア制度の拡充</u></p> <p>現制度の対象者は、国の規定により市内の 65 歳以上の方と限定されています。より多くの世代が高齢者のふれあい交流の場に参加できる仕組みづくりとして、ボランティア対象年齢の拡大についての検討を行います。(対象年齢を 18 歳以上に拡大)</p> <p>また、現制度を地域の交流の場での活動も対象とし、ボランティアを担う者が継続して支援に関われる仕組みづくりを目指します。</p> <p><u>2、ボランティアに関する講座の見直し、検討</u></p> <p>既存に行われている養成講座の内容を見直し、より現実的な活動に繋がるようなプログラムの採用やボランティア体験講座(活動イメージが想像できる)の実施を検討します。また、講座受講後実際に活動をしていない方へのフォロー講座を実施するなど、より具体的な活動に繋がる仕組みづくりを検討します。</p> <p><u>3、地域における多様な人財を活用できる体制の構築</u></p> <p>地域に住むより多くの人財や多くの世代が、高齢者のふれあい交流支援に自由に参加でき、主体的に関わることができる仕組み作りを目指します。</p> <p>また、より多くの人々が高齢者のふれあい交流に参加することで、地域住民間のふれあい交流の機会が増え、お互いを思いやり支えあう住民同士のつながりを深め、地域の活力向上にもつながる取り組みを目指します。</p>
③	取り組み(事業)の内容	<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にある交流の場として活用できる資源を発掘する。 ・ ボランティア活動へ参加する。 ・ 地域での参加の声掛けや促しを行う。 ・ 地域の実情や住民の声を校区コミュニティ組織や自治会に伝える。 ・ 受益者負担(1回 500 円を超えない範囲での)について考える。 ・ 民間団体や公的機関の補助金などを活用する。 <p>関係団体等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の提供や人財を派遣する。 ・ 地域からあがった意見の集約をおこない、地域における課題について検討を行う機関を組織横断(コミュニティ・自治会・民生委員・地域包括・支援センター・行政などで構成)でつくる。 ・ 地域における NPO 法人などの立ち上げを支援する。 ・ 企業・団体は、人財育成に関わるノウハウなどを提供する。 ・ 各種補助金における資料作成への協力を行う。 ・ 既存の組織活動の拡充(ふれあい活動での声掛け、地域資源マップの配布など)をする。

③	<p>取り組み（事業）の内容</p>	<p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア制度の拡充（助成制度や対象年齢の拡大）を行う。 ・ 空き家の利用に関する助成や支援を行う。 ・ 地域における成功／失敗事例などを集約し、マニュアルなどを作成し、地域への説明会において活用する ・ 組織運営にかかわるコーディネーターを養成し、支援を行う。 <p>対象者：地域社会福祉協議会会員 民間企業において人財育成や事業部門での経験がある者など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域組織への説明会の開催や、連絡会議を設置する。
---	--------------------	---

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

平成25年10月1日からスタート!!

よかよか介護 ボランティア制度

よかボラ



♪生きがいづくり・健康づくり・生き活きとした地域社会づくり♪
ボランティア活動を通して、あなたの魅力を輝かせてみませんか?

対象者 久留米市内の65歳以上の方

(※要支援・要介護認定者は除く)

★制度について★

☆登録された
介護保険施設等で
ボランティア活動を行
うと、
ポイントが貯まる
制度です。

☆1時間に
つき1ポイント、
1日最大
2ポイントまで
貯まります。

☆その実績
に応じて貯まった
ポイントを翌年度に
奨励金と交換、又は
寄附することができます。
(年間最大50ポイ
ント 5,000円分)

☆活動内容
は、話し相手や
施設行事の手伝い、
配膳の補助や施設の
草刈り等さまざま
です。

**まずは是非、
説明会にご参加ください!!**
(日程は裏面に記載しています)

ボ ラ ン テ ィ ア 募 集

【説明会のお申込み・問合せ先】

特定非営利活動法人

久留米市介護福祉サービス事業者協議会

〒830-0017 久留米市日吉町115 (楠病院内)

電話 0942-34-7772 (土・日・祝、お盆期間を除く)

FAX 0942-46-5841

【よかよか介護ボランティア制度に関するお問合せ先】

久留米市健康福祉部長寿支援課

電話 0942-30-9207



よかよか介護ボランティア制度

～参加方法～

① ボランティア説明会に参加、登録



② ボランティア活動を希望する施設と
活動内容や日時についての調整



③ ボランティア活動を行い、手帳にスタンプをもらう



④ 貯まったポイントに応じ、翌年度に奨励金と交換、または寄付



★説明会終了後にボランティア活動を行うか決めていただいて結構です。無理のない範囲で活動して下さい。
★介護保険の施設等で、介護に関する資格がなくてもできる、次のようなボランティア活動を行います。

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| ①レクリエーションなどの補助 | ⑥散歩や外出、館内の移動補助(身体介助を除く) |
| ②利用者の話し相手や見守り | ⑦洗濯物の整理やシーツ交換など軽微で補助的な活動 |
| ③利用者等への芸能披露 | ⑧施設敷地内の清掃、園芸、草刈り |
| ④施設行事の手伝い | ⑨その他施設職員と行う補助的な活動 |
| ⑤食事介助の補助(お茶だし、配膳・下膳など) | |



今後の説明会の日時等については、

久留米市ホームページ または

長寿支援課 (電話：0942-30-9207 /
FAX：0942-36-6845)

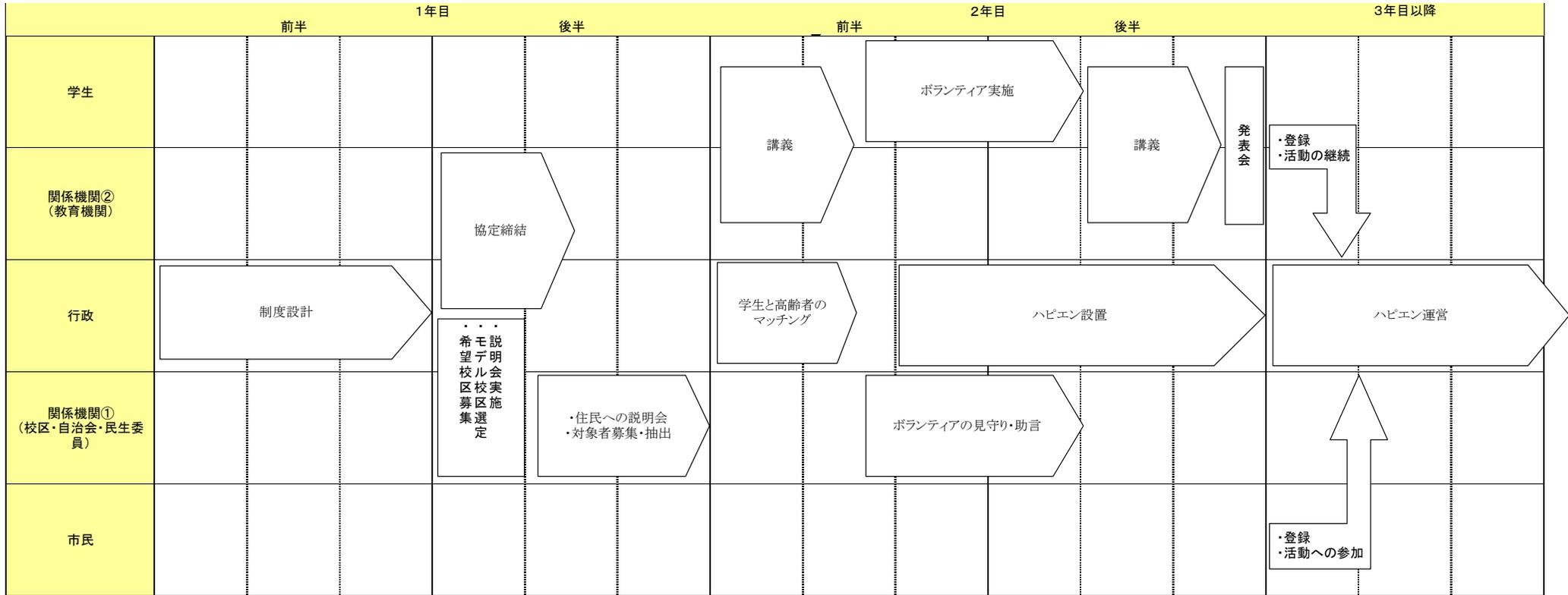
にお問い合わせください。

皆様のご参加をお待ちしております!!

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	高齢者の日常生活を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏 名	堀口 敏憲	ワーキングメンバー 氏 名	坂田拓真 古賀信夫 最所崇 江頭敏夫 松本ふみ子 一ノ瀬イツミ 菊池晋兵 堀口敏憲
①	提案分野 〔対応すべき課題〕	高齢者の日常生活を支える	
	現状・問題点	加齢に伴う体力の低下等の要因のほか、高齢者の単身世帯や夫婦世帯及び高齢者のみの世帯の増加、近所づきあいの希薄化などにより、「食事の準備」や「掃除」などの日常生活上必要な作業が困難な場合に、頼ることのできる相手がいない等のケースが増えている。	
	達成を目指す 姿・状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できる。 ・ 学生を担い手とした高齢者の日常生活支援の実施 ・ 世代間交流による相互理解を深め、多様な世代にとって住みやすい地域づくりの実現 ・ 学生の地域活動への参加促進による地域の活性化 	
②	提案する取り 組み（事業）	久留米市高齢者おたすけインターンシップ制度	
	取り組み（事 業）の内容	<p>(1) 高齢者の日常生活支援 学生が高齢者宅を訪問し、<u>高齢者の日常生活をサポート</u>する。</p> <p>(2) 校区コミュニティ組織の活動支援 学生が校区コミュニティ組織と協働し、高齢者の見守り等の<u>活動をサポート</u>する。</p> <p>(3) 地域活動への参加 文化祭やスポーツ大会、清掃活動等の<u>地域のイベント</u>へ高齢者が学生と一緒に参画する。 また、<u>地域住民が日常活動している趣味のグループ</u>へ高齢者と学生と一緒に参画する。</p> <p>(4) 学校での講座開講 実際に高齢者が日常生活でどのような事に困っており、生活に支障をきたしているのか。それを解決するにはどのような支援が必要なのか。更にはどのような支援は効果がなく、効果がある支援はどのようなものかを<u>学術的に検証</u>する。さらに、とりまとめた成果を学外で発表し、<u>学生は単位を取得</u>。</p>	

		<p>(5) クルメ・ハッピー・エンジェルズの運用</p> <p><u>高齢者支援に関する活動の受け皿となる団体（クルメ・ハッピー・エンジェルズ（略称ハピエン））を久留米市市民活動サポートセンターが事務局となり立ち上げ、そこへ登録したインターンシップ後の学生や高齢者支援活動をしたいと考えている若者に対し、情報提供や技術支援、活動費支援、各種相談等を行い、<u>高齢者支援活動を支援する。</u></u></p>
<p>③</p>	<p>②の取り組みを進める上で の市民、関係団体等、行政の役割分担</p>	<p>(1) 関係機関①（校区・自治会・民生委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を必要とする高齢者の選定 ・ 受け入れ時の見守り・助言 ・ 学生と職務遂行（民生委員） ・ 受け入れ後の見守り等の地域活動の見直し・実施 <p>(2) 関係機関②（教育機関（大学））</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座内容の検討→講座開講→成果発表会開催→単位の授与 ・ 行政との協定締結 ・ 受け入れ時の見守り・助言 <p>(3) 行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制度設計（関係機関①との調整含む） ・ 教育機関との協定締結 ・ 地域への説明、高齢者と学生のマッチング ・ 地域の受け入れに関する支援 ・ 受け入れ時の見守り・助言 ・ ハピエンの運営 <p>(4) 市民（学生以外）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハピエンへの登録 ・ 高齢者支援活動



久留米市高齢者おたすけインターンシップ制度

1. 背景・目的

高齢者は、身体的な理由や地域との交流の希薄化等により、健康で充実した生活を送れない状況や地域活動に支障をきたす状況に置かれるなど、日常生活の様々な場面において支援が必要となることがある。こうした中で、現在でも多様な手段により、そのような高齢者を支援している個人や団体はあるものの、十分な支援につながらないケースも多く見られる。

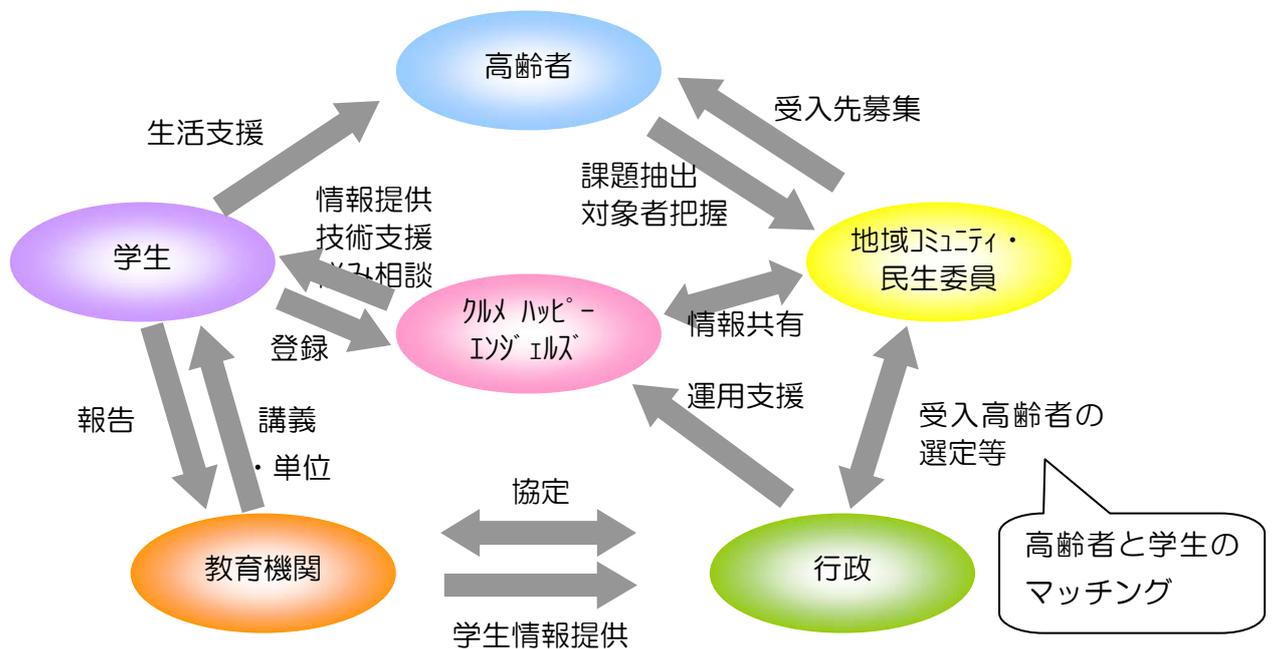
そこで、これから社会の中で中心的に活動する若者（今回は大学生、短大生、専門学校生、高専生、高校生を想定）を新たな支援の担い手として位置づけ、彼らが実際に地域に入り、高齢者と共に生活して生の生活支援活動を行うことで、上記課題を解決に寄与することを目的とする。

2. 期待される効果

高齢者の日常生活支援を図るとともに、これから社会で活動する若者の貴重な経験として蓄積され、今後の市民活動の活性化・促進を図る。また、若者と高齢者をはじめとする地域との交流がなされることで、地域の活力を創出することが期待される。

さらに、高齢者の日常生活において困難となりがちな事柄やその要因、それらに対する効果的な支援・解決策について教育機関において研究・検証し、データ・知識を蓄積し多方面へ教授していくことが期待される。

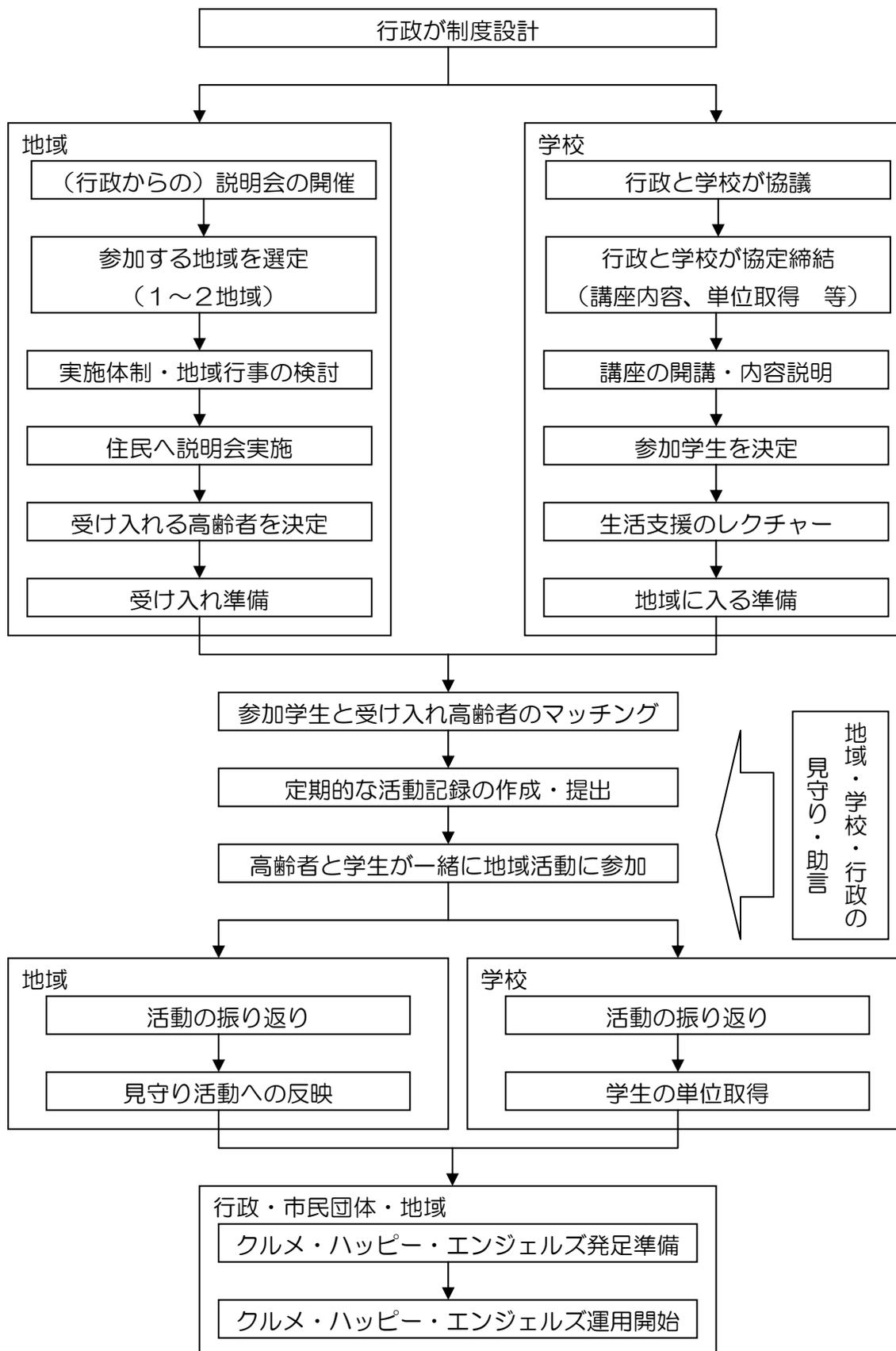
3. 主体間の関係



4. 取り組みポイント

- ・ 学生が高齢者宅等にて日常生活の支援を実施
- ・ 学生と高齢者が地域活動に参加
- ・ 学校は学生に単位を付与
- ・ 学生の高齢者の日常生活支援をはじめとする市民活動の受け皿となる組織の運用

5. 取り組みの流れ



6. 取り組みの内容

(1) 高齢者の日常生活の支援

目的	高齢者への支援を体験することで、学生が高齢者への理解を深め、実践的な技術を修得する。	
支援日	対象期間のなかで平日を基本とし、地域のイベント時は休日も実施	
支援時間	9時～17時を目安に、具体は当事者同士で調整	
支援場所	高齢者の自宅および自宅周辺	
活動費	学生の交通費、食費、物品購入費等の支援活動に伴う費用は要検討	
対象者	学生	久留米市と協定を締結する教育機関の学生を対象とする。ただし、高齢者福祉や地域活動に興味のある学生（学科、専攻は限定しない）の参加を想定しているが、当初は専門的に学習している学生を対象として開始することも有用である。
	高齢者	日常生活での支援を必要とする自治会に加入している高齢者を対象とする。支援の必要性を目安として、介護状態区分の要支援1、要支援2、要介護1を想定している。
支援内容	<p>高齢者の日常生活の介助を行う。</p> <p>※あくまで活動主体は高齢者であり、学生はお手伝いさんではない</p> <p>※教育機関・地域・行政が技術面や精神面等を全面的に即応できるよう体制の構築が必要</p> <p>※支援例：買い物に同行、階段昇降時の支え、届かないところのものを取る、一緒に草むしり、一緒に掃除、ゴミ出し…</p>	

(2) 地域活動への参加

目的	地域のイベントに参加することで、学生が地域とのつながりを身近に感じ、地域活動への参加のきっかけづくりとする。
支援日	地域のイベント日（休日については当事者同士で調整）
支援時間	イベント開催時間による。なお、当事者が主体となるイベントの場合はその準備から学生が参加することも可能
支援場所	地域のイベント会場および高齢者の自宅
活動費	要検討
支援内容	<p>①地域が開催する文化祭やスポーツ大会、清掃活動へ高齢者が学生と一緒に参加する。可能であれば学生は企画から参画する。</p> <p>②地域住民が運用している趣味のグループへ高齢者が学生と一緒に参加する。可能であれば学生が企画して実施する。</p>

(3) 教育機関での講座開講

目的	支援が必要な高齢者の行動と効果的な支援策を学術的に検証する。	
開講期間	通年（事前学習⇒実践⇒振り返り⇒成果発表）	
講座時間	90分/回	
会場	講座	教育機関
	成果発表会	くるめシティプラザ
支援内容	<p>①高齢者の支援に関する講義を実施し、受講者の一定程度の知識と技術を修得させる。</p> <p>②更なる技術の向上を図るため、実践結果をフィードバックして問題点や課題、対応策を検討</p> <p>③とりまとめた成果を学外で発表</p>	
条件	教育機関の講座とするため、行政と教育機関による協定を締結する。 ⇒受講生は単位を取得可能	

(4) クルメ・ハッピー・エンジェルズの運用

目的	インターンシップに参加した学生のインターンシップ後の活動促進、およびそれ以外の若者の高齢者への支援活動の促進を図る。
活動期間	通年
活動時間	9時～17時
活動場所	事務局（久留米市市民活動サポートセンターを想定）
支援内容	<p>①高齢者支援に関する活動の受け皿となる団体（クルメ・ハッピー・エンジェルズ [略称：ハピエン]）を立ち上げ</p> <p>②ハピエンに登録したインターンシップ後の学生や、高齢者支援活動をしたいと考えている若者に対し、情報提供、技術支援、活動費支援、悩み相談等を行い、高齢者支援活動を支援する。</p> <p>③地域からの高齢者支援や地域活動等に関する応援要請も受ける。</p> <p>④市内外における災害時には避難所等へのボランティア活動への協力にも対応する。</p>

7. スケジュール

別紙参照

8. 各主体の役割

行政	教育機関	地域
<ul style="list-style-type: none">・ 制度設計・ 教育機関と講座について協議 ⇒協定締結・ 地域への説明 ⇒学生とのマッチング・ 地域の受け入れ支援・ 受け入れ時の見守り・助言・ ハピエンの運営	<ul style="list-style-type: none">・ 講座の内容の検討・ 行政と講座について協議 ⇒協定締結・ 受け入れ時の見守り・助言・ 講義の開催・ 成果発表会の開催	<ul style="list-style-type: none">・ 受け入れる高齢者の選定・ 受け入れ準備・ 受け入れ時の見守り・助言・ 受け入れ後の見守り等の地域活動の検討・実施

9. 今後の展開

久留米市以外の学生も巻き込むことで、久留米市のPRや久留米市での定住促進にも繋がるような展開も期待したい。

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書(高齢者第2グループ)

高齢者（60歳以上の単身生活者）と校区コミュニティ組織・自治会・民生委員等との交流イベントの実施

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	高齢者の日常生活を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏 名	堀口 敏憲	ワーキングメンバー 氏 名	坂田拓真 古賀信夫 最所崇 江頭敏夫 松本ひみ子 一ノ瀬イツミ 菊池晋兵 堀口敏憲
①	提案分野	高齢者の日常生活を支える	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のいる世帯は増加傾向にあり、その中でも一人暮らし高齢者世帯は、そのうちの約4分の1の割合で近年は推移している。 ・ 一人暮らしの高齢者の中には、自分の住んでいる地域で過ごす時間が多いものの、地域の方々と知り合う機会が少ないため、人生で培った知識・経験などを発揮がなく、また、地域の中で支え合う場が少ないと感じている方々も多い。 ・ 行政・社会福祉協議会・地域包括支援センター・保健所・警察・消防・民生委員・校区コミュニティ組織・自治会・市民公益活動団体・事業所等が活動し、高齢者の生活を支えるために尽力している。しかし、これらの活動が対象者の参画意識及び情報量の不足から十分な成果が得られず、上記の課題解消につながっていない面もある。 	
	達成を目指す姿・状況	一人暮らしの高齢者が地域の活動に参加し、仲間とともに地域を支え合って日常生活をしている。	
②	提案する取り組み(事業)	高齢者（60歳以上の単身生活者）と校区コミュニティ組織・自治会・民生委員等との交流イベントの実施	
	取り組み(事業)の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者（60歳以上の単身生活者）と地域で活動する校区コミュニティ組織の役員、自治会役員・民生委員、ふれあいの会・老人クラブ、関係諸団体の関係者等（以下「主催者」）で交流イベントを実施し、地域と高齢者（60歳以上の単身生活者）の出会いきっかけを作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 顔見知りとなった高齢者は、高齢者間交流を自主的に行い、また、主催者が日常的に行っている地域活動に参加する。 ・ 支援が必要な高齢者は、地域で行われているサロンへの参加を促すほか、民生委員やふれあいの会が行う訪問活動により重点的に見守っていく。 2 きっかけづくりコンテスト（あなたに出会えてよかった）の開催 きっかけづくりの活動を行った地域を対象として、事例紹介・効果等を発表するコンテストを実施し、それぞれの地域における意識の向上を図る。 	
③	②の取り組みを進める上での市民、関係団体等、行政の役割分担	<p>市民（60歳以上の単身生活者）（啓発）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主催者への協力（積極的に参加をして行政への協力） ・ 主催者との交流により、生活に必要な情報（健康づくり、生活支援団体、相談先、安全、医療・介護等）を積極的に収集する。 ・ 主催者及び参加者と積極的に交流を図り、イベント後における自主的な地域活動や交流につなげる。 	

関係団体等

1 校区コミュニティ組織等

- ・交流イベントの企画・運営を行う。
- ・交流イベントの意義について参加者が十分に理解するための事前説明会の実施。
- ・地域で活動する地域コミュニティ等の役員、自治会役員・民生委員、ふれあいの会・老人クラブ、関係諸団体の関係者等の参加と協力を呼びかける。
- ・地域内広報にあたっては、個別パンフの配布、個別訪問の繰り返し等により、通常以上の広報を行う。
- ・きっかけづくりコンテスト（あなたに出会えてよかった）への参加。

2 久留米市校区まちづくり連絡協議会

- ・きっかけづくりコンテスト（あなたに出会えてよかった）の開催

行政

- ・財政的支援を行う
- ・交流イベント支援の対象は校区コミュニティ組織とし、対象者の人員数により、イベント実施は各自治会単位も支援可能とする。
- ・交流イベント支援に係る主催者への説明会実施。
- ・交流イベント広報支援。

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	速水 麻友子	ワーキングメンバー 氏名	佐藤 佐和香、田中 崇、権藤 敏博、 尾花 清美、河野 昌枝
提案分野 [対応すべき課題]	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の子育てを支える（切れ目ない子育て支援の体制づくり） 		
現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> マタニティ期は、行政からの支援は充実しているが、妊婦同士の交流が生まれるような場は少ない（支援センターなどの子育て支援施設は妊娠中は行きにくい）。 子育て支援情報が必要な人に届いていない。情報が一元化されていない。 保育園の入園手続きに関する情報を知らない人が多い。希望する保育園に入れない、母親が入園を希望する時期に保育園の空きが無い現状。 社会環境の変化による多世代交流の減少、子育て知識継承の困難化。 発達障害を持つ親子へのサポート体制や社会の理解が乏しい。 		
達成を目指す 姿・状況	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠、子育て中の親子が子育て支援情報を知り、必要な支援を受けながら安心して子育てができる。 		
提案する取り 組み(事業)	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代交流ネットワークの構築 (マタニティフェアやプレママパパ交流会の開催) 		
取り組み(事業) の内容	<ul style="list-style-type: none"> 久留米市で開催されているイベントなどで「マタニティフェア」を同時開催し、出産予定日が同じ時期のプレママ同士での交流やグループトーク、先輩プレママや保健師等による相談、幼稚園や保育園の情報コーナー、発達障害などに関する相談ブース、子育てグッズお試しコーナーなどを設定する。 <ボランティア主催で開催し、病院関係（産婦人科、小児科）や企業（ベビー用品など）にも呼びかける。プレママのみで集まれる場と、子どもとの交流が出来る場や体験コーナーを準備。プレパパも巻き込む形でのコーナーを検討> プレママが地域ごとに集まって交流できる拠点作り。 <保健所プレママ対象各教室後にマタニティカフェを開催し、プレママパパ同士の交流が広がる場作り、先輩ママパパや保健師とのフリートーク、子育て支援情報の提供、出産後の自助的フォローに繋がるような仲間づくりなどを行う> <母子手帳配布時や産婦人科などに広報協力をお願いし、小学校区のコミュニティセンターなどでの交流会を毎月開催。開催のために行政、地域、ボランティア、先輩ママなどの協力体制を整える> 父子手帳（父親向け子育て支援冊子）の配布 <父親の子育ての出番が増えるような啓発、母子手帳と一緒に配布し、子育てへの意識を高める。子育て情報の夫婦間での共有を深める> 		

<p>の取り組みを進める上で の市民、関係団体等、行政の役割分担</p>	<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティフェア主催団体の立ち上げ、企画など。 ・ マタニティフェアやプレママ交流会へのボランティア協力。 （子育てお助けボランティアの活用） ・ 先輩ママパパ、ピアカウンセリング的立場でのマタニティカフェへの参加。 （子育てサークルやボランティア団体主体での開催検討） ・ プレママ交流会、マタニティカフェ用マニュアル作成協力。 <p>関係団体等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティフェア主催団体の立ち上げ協力。 ・ マタニティフェアやマタニティカフェ、プレママ交流会への協力。 （広報、ブース出展、ボランティア参加など） ・ プレママ交流会、マタニティカフェ用マニュアル作成協力。 <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティフェア主催団体の立ち上げ協力。 ・ 市主催のイベントでのマタニティフェア出展の調整。 ・ マタニティカフェ開催に向けて保健所で開催している事業との調整、プレママ交流会、マタニティカフェ用マニュアル作成。 ・ プレママ交流会開催に向けての地域との調整、関係団体や学校等との調整。 ・ 主任児童委員の充実（校区配置人数の検討）。
--	--

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

子育て世代交流ネットワークの構築



プレママパパを
子育て仲間とつなげ
ていく機会にしよう

子育てお助け

ボランティアの活用



マタニティフェア実施
(久留米市で開催されているイベントで同時開催)

プレママパパ同士でのグループトーク、先輩プレママパパや保健師等による相談、幼稚園保育園園情報コーナー、発達障害等に関する相談ブース、子育てグッズお試しコーナーなど...
(ボランティア団体主催で関係団体や企業と協力して開催)
長く続くような仕組みで、親子で楽しめるイベントを!

プレママが地域ごとに集まって交流できる
拠点作り

出産後のフォロー
に繋がる交流会に
なるように工夫

保健所プレママ向け事業終了後にプレママパパ同士の交流が深まるような場の提供
(マタニティカフェの開催)
地域、ボランティア、行政の協働で校区コミュニティーセンターや公共施設などでの交流会を開催

父子手帳(父親向け子育て支援冊子)配布

父親の子育ての出番が増えるような啓発、母子手帳と一緒に配布し、子育てへの意識を高める
夫婦間での子育て情報の共有化の推進

パパ寄りの子育て視点での編集、パパの継続した育児参加のきっかけとなるように!

マタニティカフェ、プレママ交流会開催用マニュアルの検討
(見て分かりやすい形で、交流会ルールの図式化)
主任児童委員の充実(校区配置人数の検討)

「話せて良かった」
「友だちが出来た」
「気持ちに余裕が持てた」
フリートークやアドバイスでホッと一息つける場に



次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	速水 麻友子	ワーキングメンバー 氏名	佐藤 佐和香、田中 崇、権藤 敏博、 尾花 清美、河野 昌枝
①	提案分野 [対応すべき課題]	・ 乳幼児の子育てを支える（切れ目ない子育て支援の体制づくり）	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティ期は、行政からの支援は充実しているが、妊婦同士の交流が生まれるような場は少ない（支援センターなどの子育て支援施設は妊娠中は行きにくい）。 ・ 子育て支援情報が必要な人に届いていない。情報が一元化されていない。 ・ 保育園の入園手続きに関する情報を知らない人が多い。希望する保育園に入れない、母親が入園を希望する時期に保育園の空きが無い現状。 ・ 社会環境の変化による多世代交流の減少、子育て知識継承の困難化。 ・ 発達障害を持つ親子へのサポート体制や社会の理解が乏しい。 	
	達成を目指す 姿・状況	・ 子育てに関わる人を増やし、子育て支援に対する意識の醸成を進める。	
②	提案する取り 組み(事業)	・ 「子育てお助けボランティア」の活用	
	取り組み(事業) の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援に関するボランティアを幅広く募り、保育園や子育て支援関係の施設、イベントなどでの活動を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <子どもにいろいろな人に関わってもらえるように子育て当事者、高齢者、学生、企業などから幅広く人材を登録し、自分が活動したいときに参加できるような組織作りを行う> <研修受講回数とボランティア活動回数で段階を作ってボランティアに参加、星の数で活動内容が広がる☆制度を導入> <子育てボランティアコーディネーターを養成し、ボランティアコーディネート機関において、ボランティア活動の受け皿の整理、研修の実施、ボランティア登録、活動のコーディネートなどを行う> ・ 企業や学校などに、所有バスを保育園児の送迎サービスなどに利用出来るように協力を呼びかける。 	

<p>③</p>	<p>②の取り組みを進める上での市民、関係団体等、行政の役割分担</p>	<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア組織への積極的な登録、研修の受講、活動への参加。 ・ 関係団体や行政と協働でのコーディネート機関の立ち上げ、研修内容等の検討や実施。 ・ 「有償ボランティア」という認識の一般化。 <p>関係団体等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民、行政と協働でのコーディネート機関の立ち上げ、研修内容等の検討。 ・ 「有償ボランティア」という認識の一般化、ボランティア人材の有効活用。 ・ 講師派遣など研修への協力。 ・ ボランティア組織の活動などについての広報協力。 <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民、関係機関と協働でのコーディネート機関の立ち上げ、研修内容等の検討。 ・ ボランティアについての広報、予算の確保。 ・ 企業や学校などへの協力依頼。 ・ 講師派遣など研修への協力。 ・ コーディネーター育成についての検討。
----------	--------------------------------------	--

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

子育てお助けボランティア組織



「研修受講回数」+「ボランティア活動回数」
 で段階を作ってボランティアに参加。
 星の数で活動内容が広がる！
 （活動の楽しさを広げるための☆制度）

ボランティア活動をするために必要な研修を
 活動希望者が受講しやすい日程で開催。
 （夜間、土日なども検討）

3ツ星!

**子育てボランティア
 コーディネーターへ!**

2ツ星!

1ツ星!

活動歴は
 活動カード
 で管理
 ボランティア
 の内容や
 日時を記録

報酬は活動
 に応じて、
 お茶などの
 物品や交通
 費など様々

研修受講時間…〇〇H
 活動歴…〇〇H
 報酬
 活動可能ボランティア内容

研修受講時間…〇〇H
 活動歴…〇〇H
 報酬
 活動可能ボランティア内容

研修受講時間…〇〇H
 活動歴…〇〇H
 報酬
 活動可能ボランティア内容
 {
 }
 3ツ星ボランティアは活動の中心
 となるリーダー的役割も果たす。

組織の中でボランティア
 を育成、活動を正しく評価
 （良い所を高く！）し、温
 かい目で見守れる存在

- ・支援が切れ目なく続く仕組み作り
 （組織内での活動のつながりを）
- ・責任感を持って活動出来る人の育成
 （広い視点で活動できる人の育成）

**ボランティア
 コーディネート
 機関（子育てに関
 係する団体）**

ボランティア活動希望者の把握、ボランティア活動の受け皿となる場所や内容、時間帯の整理。
 ボランティア研修の実施、ボランティアの登録、活動のコーディネートなど…

「有償ボラン
 ティア」
 という認識の
 一般化を!

関係団体等でのボランティア活動の受け皿作り（幼稚園、保育園、子育て支援施設などでのサポート活動）、企業を含めたPRも検討。

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

チーム名：くるキッズ

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	横道 勝紀	ワーキングメンバー 氏名	阿部 展明、古川 克介、羽江 育子、 阿比留 拓見、坂田 里奈
①	提案分野 〔対応すべき課題〕	放課後の居場所づくり	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き世帯、ひとり親世帯、核家族化が進んでおり、子ども達が放課後帰宅しても、家に子どもだけで孤立している。 ・学童保育後に帰宅しても、保護者の帰りが遅い世帯は、子どもだけで孤立している。 ・放課後の居場所として、学童保育・運動クラブ・学習塾などがあるが、費用負担や送迎ができず通うことができない子どももいる。 ・子ども達同士、学年を越えたつながりが薄い。 ・放課後、自由に使うことができる場所(学校体育館、学校内研修室、校庭、コミセンなど)がほとんどない。 	
	達成を目指す 姿・状況	子ども達が、放課後に孤立せず、学年を越えて縦と横のつながりを持てる交流を図る。	
②	提案する取り 組み（事業）	小学生の学校内での放課後活動	
	取り組み（事 業）の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移動がなく安全で、慣れ親しんでいる小学校(校庭、体育館、プレイルーム等)を利用して、学校内で放課後を過ごすことができる活動を行う。 ・ 運営は、放課後活動実行委員会(仮)が行い、定期的にワーキングを行い、課題把握やその解決策を検討し、地域にマッチした活動につなげていく。 ・ 実行委員会の中心になるコーディネーターを公募し、研修を十分行い活動を進める。 ・ 当日の活動は子どもの自主性に任せ、活動内容を指定しないことで、子ども達の自由な居場所作りや、自己決定能力を養うことができるような環境作りを行う。 ・ 活動日は週 1 回(最低月 2 回)、平日の放課後から 17 時までとし、自分で帰宅可能な時間とする。 ・ ボランティアの見守り隊員(保護者、地域の退職世代や大学生)により、活動の安全管理、遊びの提供等を行う。 ・ 当初は、モデル校区を 2 校区募って実施し、課題等を検討する。 	

<p>③</p>	<p>②の取り組みを進める上で の市民、関係団体等、行政の役割分担</p>	<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の見守り隊員としてボランティア登録し、活動に参加する。 ・ 放課後活動実行委員会(仮)に参加し、活動やワーキングに参加したりして、地域に密着した活動になるよう協議する。 <p>関係団体等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを対象にした活動の専門家として、安全管理や運営方法等、活動への助言を行う。 <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを対象にした活動を熟知したコーディネーター(有償ボランティア)を募集し、研修を行う。 ・ 活動の見守り隊員として、ボランティアを募集し登録する。 ・ 学校施設が利用できるよう調整を行う。 ・ PTA やまちづくり組織等の関係団体への協力を働きかける。 ・ 事業実施にあたり、財政支援(コーディネーター謝金や費用弁償等)を行う。
----------	---	---

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	馬場 義之	ワーキングメンバー 氏名	鐘ヶ江 淳一 ・ 村井 麻木 合原 久美子 ・ 橋本 五郎
①	提案分野 [対応すべき課題]	・子育てに関わる人を増やす	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会におけるコミュニティ組織が希薄化し、地域や子ども会の世話やPTA役員等になりたがらない傾向が強くなっている ・男性の育児、家事参加が少ない。 ・学校への過大な期待があり、先生にばかり負担を強いている。 ・学校を支える体制が不十分である。 ・ボランティア活動はさかんであるが、サポート体制が不十分である。 	
	達成を目指す 姿・状況	学校と家庭・地域社会が連携し、子どもの成長を支える仕組みを再編し、学校と家庭・地域社会の双方にメリットがある関係に変える。	
②	提案する取 組み(事業)	くるめっ子サポーター事業	
	取組み(事 業)の内容	<p>○子ども達の成長に必要な自尊感情や人間関係力やコミュニケーション力などを学校が、学校外の地域資源（ひと・もの・こと）を活用して育てたいと考えている場合に、学校のニーズに応じて「必要な地域資源」をセレクトし効果的に提供する公的なネットワークを構築する事業。</p> <p>○学校との接点強い主任児童員、民生委員、コミュニティセンター事務職員等校区を担当する「エリアリーダー」として任命し、学校のニーズを把握する役割を担ってもらう。</p> <p>○行政が主体となって、「子育て」「メディア」「高齢者」「人権」「体験活動」等、子どもの成長に必要な様々な活動テーマを企画・提供できるボランティア団体やNPO法人を公開審査により公募し、各テーマごとに「くるめっ子バンク」として登録する。</p> <p>○エリアリーダーは、学校のニーズに対し、効果的な支援を提供できるボランティア団体やNPO法人を各「くるめっ子バンク」から選定し、学校に提供できる活動企画書を各団体と協働し、作成する。</p> <p>○エリアリーダーと企画書を作成したボランティア団体やNPO法人は、作成した企画書（添付資料）を学校に提案し、学校との協議の上、企画書の練り直しを行い、活動実施に向けての準備を行う。</p> <p>○事業実施に際しては、行政からの取材等を行い、活動の成果を市ホームページ、広報くるめ等で積極的に情報発信をしていく。</p>	

<p>③</p>	<p>②の取り組みを進める上での市民、関係団体等、行政の役割分担</p>	<p>市民・関係団体等</p> <p>○子ども達の成長支援のために提供できる地域資源（ひと・こと・もの）を持つボランティア団体やNPO法人は、「くるめっ子バンク」への登録申請を行う。</p> <p>○学校からのニーズに応じて、提供できる支援内容をエリアリーダーとともに企画・立案する。</p> <p>○エリアリーダーは、学校との情報交換を積極的に行い、学校のニーズを把握するとともに、各「くるめっ子バンク」に登録されている団体等の活動内容の把握に努める。</p> <p>行政</p> <p>○大学等の公開講座やボランティア養成講座等を受講した希望者の中から、エリアリーダーを公開審査の上、選定し、市の非常勤嘱託職員として雇用契約を結ぶ。</p> <p>○広報活動を通じて、学校を支援する活動を提供できるボランティア団体やNPO法人を公募し、公開審査の上、各テーマごとの「くるめっ子バンク」に登録する。</p> <p>○「くるめっ子バンク」はテーマごとに担当課を決め、登録されたボランティア団体やNPO法人に対し、学校に提供できる支援内容の企画書作成をしてもらう。</p> <p><例> 「子育てバンク」(子ども育成課)・「高齢者バンク」(長寿支援課) 「メディア問題バンク」(情報政策課)・「人権バンク」(人権・同和対策課)</p> <p>○担当課は、担当する「くるめっ子バンク」に登録されたボランティア団体やNPO法人を定期的に集め、活動内容の交流や学校への支援のあり方について協議を行う。(エリアリーダーにも参加してもらう)</p> <p>○市ホームページや担当課作成のフェイスブック上で、「くるめっ子バンク」に登録されているボランティア団体等の活動内容や学校へ行った具体的支援の様子を紹介、閲覧できるようにする。</p> <p>学校</p> <p>○学校は「くるめっ子バンク」から提供を受けた企画書をもとに取り組んだ教育活動を学校通信や学校ホームページを通じて、情報発信する。</p>
----------	--------------------------------------	--

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

*事前打合せ；6月6日（金）17：00 大橋小学校；永松教務主任

→ 最終打ち合わせ；6月26日（木）16：30 大橋小学校済み（永松先生、江上、空閑、岩井、池上）

- ・日時；7月9日（水）14：20－15：40《集合；13：00》
- ・会場；大橋小学校；体育館
- ・対象；4年生；15名、5年生；20名、6年生；10名の生徒（45名）＋教職員；13名＋保護者；40名＋地域の方々＝（45名＋13名＋40名＋30名＝128名）予定
- ・担当；久留米市キャラバン・メイト連絡会の皆さん ほか

進行表；

時間微調整が、まだ必要です。（6/26調整済）

司会進行；永松 先生

予定	時間(分)	具体的な内容	備考
集合； 13：50 →	13：00 へ	集合場所；大橋小学校／体育館	外部関係者
14：20－14：25	5	・開講の挨拶	雄野 校長先生
14：25－14：30	5	・自己紹介・オリエンテーション	全員、江上
14：30－14：35	5	・資料配布；テキスト《小学生用》《大人用》	全員
14：35－14：50	15	・寸劇「認知症のおじいちゃん」子供5年生	寸劇チーム
14：50－15：10	20	・認知症について	CM；(中村)
15：10－15：15	5	休憩<トイレのみ>	
15：15－15：25	10	・DVD上映（認知症の方への対応3例）	学校
15：25－15：35	10→15分へ？	・まとめ；質問の投げ掛け方を工夫する	永松 学級担任
15：35－15：40	5	《大人；アンケート依頼の事》 ・生徒は、感想の記入（教室で後ほどの案内）	全員
15：40		・閉講の挨拶	江頭教頭先生

*終了後、<オレンジリング配布>する

- 役割分担； 受付；人数が多いので、東包括スタッフにも依頼。（受付名簿作成；永松先生）
- ・資料；（作成及びセット）（小学生用テキスト・アンケート・進行表／コピー；三原）
 - ・講師； CM（キャラバン・メイト） ・参加募集は、保護者、地域の方々へおこなう
 - ・DVDセット；大橋小学校 ・模造紙による「式次第表」作成（永松先生）
 - ・資料配布；<テキスト（先生分は小学生用）、オレンジリング（S&M）など>
 - ・寸劇；寸劇チーム（山田リーダー・糸永ほか） ・アンケート回収箱
 - ・ビデオ機器／撮影なし
 - ・報道関係；（西日本など案内？）特に、無し。・PTA；久留米市立大橋小学校PTA（石原会長）
 - ・地域の方々；大橋まちづくり委員会（秋永会長） ・大橋校区社会福祉協議会（井上 会長）
 - ・運営；久留米市社会福祉協議会（三原）／キャラバン・メイト連絡会（江上）
 - ・その他；・マイク3本あり（プラス東包括から2本借りる） ・生徒は床すわり・駐車場；運動場

*なお、当日 1～3年生／14：20までと、15：50～16：30「4～6年生保護者学級懇談会」が行われる予定

- ・今後の事；2014年以降継続検討（4～6年生及び保護者、地域の方対象）

開催年月日	平成 26 年 8 月 28 日	ワーキング テーマ	子どもの成長を地域で支える仕組みづくり
リーダー 氏名	岸田 兼一	ワーキングメンバー 氏名	杠 顕一郎、柴田 晃、柴原 美規 川野 寛史、坂井 輝久
①	提案分野 [対応すべき課題]	・ 子どもの一人ひとりの成長に、多世代の様々な人が関わる	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子共に、地域との関わりが希薄になる事が増えている。 ・ 子育てに関わる団体は多くあるが、大半が独自に活動しており、連携が取れていない。 ・ 子育て支援の情報やサービスが、それを必要とする親に届きにくい。 ・ 子育ての現場全体で、子ども一人ひとりに合わせた細やかなフォローが出来ておらず、学習意欲の低下や疎外感を感じる子どもが増えている。 	
	達成を目指す 姿・状況	・ 多世代の人が子育てに関わることで、多様な価値観や健全な心を育まれた子どもで溢れる地域	
②	提案する取り 組み(事業)	地域コミュニティ施設の子育て支援拠点化事業	
	取り組み(事業) の内容	<p>【事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校区コミュニティ組織の加入非加入を問わず、校区内に点在する子育て支援団体の横断的組織「子育てネットワーク会議」を設立し、『子育て支援』、『学習支援』、『人材育成』の3つの視点から、地域との協働のもと、子育て支援事業を企画・実施するモデル校区に対して、行政が財政的な支援を行う。 <p>【事業実施のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 当該事業は、モデル校区が子育てに関する多様な事業を実施することにより、多世代の大人が地域の子育てに関わり、子どもたちの社会性や地域への愛着感の育成を図ることを、第1のねらいとして実施する。 ○ また、事業の実施にあたり、コミュニティセンターという施設を拠点とすることで、センターを誰もが気軽に立ち寄れる場所に変え、子どもの育成を通じて多世代の人が交流できる環境を作り、地域活動に対して積極的とはいえない若い世代の事業参画を促し、コミュニティ組織の活性化についてもねらいの1つとしたい。 <p>【モデル校区としての応募要件】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校区内で、子育てに関わる各種団体が、連携して地域の子育て支援に当たることを目的とした「横断的な組織」が設立されること。 ○ 組織設立にあたって、現役子育て世代が中心になり組織運営を担っていること。 (関係団体への所属の有無は問わない) <p>【モデル校区が実施する事業例について】</p> <p>地域内での課題認識を踏まえ、これからの子育てに関して重要な要素となる次の3つのテーマに則した事業内容とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 子育て支援 (取組み例) <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもを育てる親が集い、悩みを話し合うなどして交流を深める「ママパパカフェ」 ・ 中学生を対象に、乳幼児とその親と交流する場をつくる「ふれあい交流会」 (2) 学習支援 (取組み例) <ul style="list-style-type: none"> ・ 郷土出身者による、子どもの学習意欲を高める「出前講座」 ・ 農業体験など、子どもたちが自然の中で社会性を育むような「自然体験学習事業」 (3) 人材育成 (取組み例) <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生や地域の高齢者が、ボランティアスタッフとして各事業に携わる「子育て応援隊」 ・ 有識者を呼び、子育てに関する基礎知識、心構え等を学び広める「親学講座」 	

<p>③</p> <p>②の取り組みを進める上で の市民、関係団体等、行政の役割分担</p>	<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施される事業への積極的な参加、ボランティアスタッフとしての協力 ・事業への参加を通じて、地域との関係を密にしていく ・地域内での呼びかけ、広報紙による報告 <p>関係団体等</p> <p>○校区コミュニティ組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織立ち上げの際の関係団体への呼びかけや、地域住民への周知、運営支援 ・コミセンの貸出し ・コミセンを拠点とした事業なので、定例会議への出席などを通して、密な連携を図る。 <p>○子育て支援関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新組織における若い世代の役員選出 ・構成団体の活動趣旨・活動内容の知識を深め、連携して事業を行える体制整備 <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補助制度の策定 ・モデル事業期間を通じた課題の洗い出し、成功事例の分析等、事業の洗練化 ・市全域に対する広報活動
--	---

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

地域コミュニティ施設の子育て拠点化支援事業

【地域における子育ての課題認識】

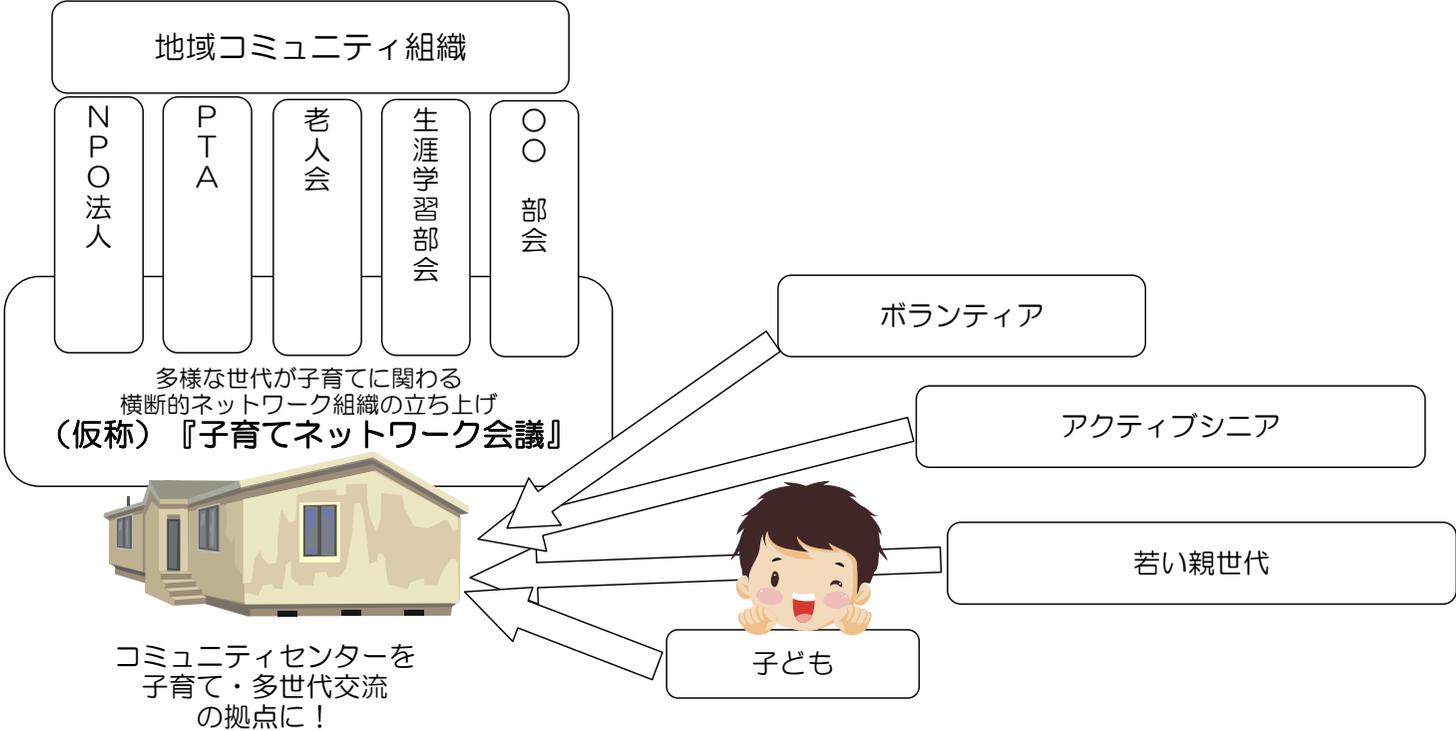
- 地域における人間関係が希薄化している。
- 子育て支援の情報やサービスが、それを必要とする親に届きにくい。
- 子どもにとって、信頼できる相談相手（環境）が少ない。
- 子どもとの向き合い方に悩む大人が増えている。
- 教育現場で、子ども一人ひとりに合わせた細かなフォローができていない。
- 学習意欲の低下や疎外感を感じる子どもが増えている。
- 子育て世代の親同士の交流機会が少ない。
- 若者の地元志向の高まり

【地域における子育て環境のあるべき（あって欲しい）姿】

- 地域における人間関係が緊密になる。（知り合いになる）
- 子育て中の親に、支援メニュー等に関する情報が容易に届く。
- 子どもたちが、身近な場所で、悩みや相談を気軽にできる。
- 子育て中の親が、子育てに関する悩みを気軽に相談できる。
- 子どもが多世代の人たちと関わりを持ち、多様な価値観を習得する。
- 子どもを介して、親同士や多世代の人たちに交流が生まれる。
- 地域コミュニティ施設に人が集まる。
- 地域住民が自治会に積極的に加入する。
- 子どもを持つ若い世代が、積極的に自治会活動に参加する。

以下の視点から、子育て支援事業を企画・実施

- ① コミセンを拠点とした事業であること
- ② 多様な世代が子育てに関わる事業であること
- ③ 現役で子育てをしている世代を中心に
- ④ モデル期間が終わっても自主的な活動につながるように



次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

ちゃりんこレンジャー
チーム

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	市民参画による久留米市の魅力発信のしくみづくり
リーダー 氏名	川田 勝志	ワーキングメンバー 氏名	隈 早苗、松永 直子、熊丸 智雄 眞子 佳子、緒方 伸恵
①	提案分野 [対応すべき課題]	自転車活用による久留米の魅力度UP ～自転車をつなぐ広がる久留米の魅力～	
	現状・問題点	① 久留米には多くの魅力があふれているがそれを生かしきれていない。 ② 久留米では多くのイベントや名所が互いに連携してPRしておらず、会場をつなぐ手段もない。 ③ 久留米競輪やサイクルファミリーパークなど自転車関連施設のPRをしているにも関わらず認知度が低い。	
	達成を目指す 姿・状況	“自転車の街・久留米”をPRすることで久留米の知名度と好感度を高め、交流人口を増やし、日本一住みやすい街を目指す。	
②	提案する取 組み(事業)	A「ツール・ド・久留米」の開催(季節イベント型事業) B「春夏秋冬くるめチャリ旅」の実施(通年型事業)	
	取組み(事 業)の内容	A【ツール・ド・久留米】 ① 全国から自転車愛好家が集まる九州一の自転車イベント「ツール・ド・久留米」を開催し、『自転車の街・久留米』をPR ② 「ツール・ド・久留米」の関連イベントとして自転車の魅力を伝える「サイクルフェスタ」を同時開催 ③ 「ツール・ド・久留米」開催日を“自転車の日”に設定。「くるめ街かど音楽祭」「草野まちかど博覧会」をコラボレーションイベントとして、互いにPRすることで、自転車活用による市内の回遊性を高める。 B【春夏秋冬くるめチャリ旅】 ① 久留米の自然や歴史・文化・産業・グルメ・季節イベントを自転車で回りながら満喫する、市内の自転車旅マップを春夏秋冬3ヶ月ごとに作成する ② シーズンごとにチェックポイントでスタンプを集めて応募すると久留米の魅力グッズをプレゼント ③ 自転車の旅や久留米の街の魅力をテーマにした俳句及び写真を募集する。	
③	②の取組みを進める上での市民、関係団体等、行政の役割分担	市民 ・イベントの担い手として、イベントの運営補助や自転車の誘導、自転車の搬送、交通整備、貸出のためのボランティアとして積極的に参加する。 ・ルートの設定及びマップの作成のためのワーキングメンバーとして参加する。 関係団体等 ・事業の趣旨に賛同する外郭団体またはNPO団体等で「自転車の街づくり実行委員会又は事務局(仮名)」を組織し、イベントの参加者募集や、実施、ルート、マップの作成などの運営を行う。 行政 ・事業への予算補助。 ・施設・会場の提供または行政手続き(使用許可等)を行う。 ・イベント間の調整、広報、プロモーション活動	

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

自然

筑後川 耳納連山 花（つつじ 椿 菜の花 バラ）

祭・イベント

筑後川花火大会、鬼夜、酒蔵まつり

歴史・文化

高良大社 水天宮 石橋美術館 青木繁

音楽の街 BS 吹奏楽団 中村八大

農業・グルメ

米 地元野菜 フルーツ

ラーメン 焼き鳥 うどん

エツ 地酒

久留米の魅力

著名人

松田聖子 チェッカーズ

田中麗奈 中野浩一

交通・レジャー

新幹線 西鉄電車 久留米インター

競輪 サイクルファミリーパーク

教育・福祉・医療

久留米大 久留米産業大 久留米高専

子育て支援 高度医療

産業・伝統工芸

ゴム産業、自動車産業、久留米餅、籃胎漆器 城島瓦

“自転車の街・久留米”

【ツール・ド・久留米】

【春夏秋冬・くるめチャリ旅】

子どもから高齢者まで楽しめるレジャー

手軽な交通手段（交通渋滞緩和）

低価格

健康的

自転車の魅力

エコロジー

ファッションナブル

スポーツ競技（オリンピック競技）

自転車産業

（自転車部品、衣料品など関連産業も）

A. 「ツール・ド・久留米」企画書

1. 事業名

「ツール・ド・久留米」 <季節イベント型事業>

2. 事業の目的

全国から自転車愛好家が集まる九州一の自転車イベント「ツール・ド・久留米」を開催し、“自転車の街・久留米”を広くPRすることで、久留米の知名度と好感度を高める。

また、「サイクルフェスタ」を同時開催し、自転車メーカーや地元業者と連携しながら自転車がおもつ様々な魅力を伝える。さらに自転車利用を促す他のイベントとコラボレーションすることで、相互PRによる参加者の増加と市内の回遊性の向上を目指す。

3. 日程

11月上旬の（土）、（日） 2日間

4. 出発地及びイベント会場

久留米百年公園及びリサーチパーク展示場

5. 事業内容

①「ツール・ド・久留米」

初級・中級・上級者向けの各コースの自転車レース。初級・中級は競輪選手（元選手）も並走。

- 初級コース : 筑後川沿いコース
- 中級コース : 筑後川～草野街道コース
- 上級コース : 筑後川～耳納連山コース

②「サイクルフェスタ」（同時開催イベント）

1) おもしろ自転車レース

サイクルファミリーパークのおもしろ自転車を利用した、子どもから大人まで楽しめる自由参加型のレース。

2) 自転車展示会&試乗会&オークション

自転車メーカー及び市内自転車店による最新型自転車や、人気の高い自転車等の展示会。実際に試乗もでき、気に入れば取扱店等で購入予約も可能。また、人気車種のオークションも実施

3) 競輪選手等トークショー

オリンピック選手、有名競輪選手などによるトークショー。日頃見ることの出来ない選手の素顔に触れ、競輪ファンを増やす。

4) 自転車ファッションショー

自転車レース・サイクリングをテーマにした市民参加型のファッションショー。地元フリーペーパー等との共催により、参加者の募集やショーの様子をフリー誌の紙面やHPにも掲載。

5) 自転車健康教室

市内の医療機関と連携し、健康・美脚になるサイクリング法など、自転車をもたらす体に良い様々な効果を紹介。

③『久留米・自転車の日』コラボイベント

「ツール・ド・久留米」開催日を『久留米・自転車の日』と設定。

例年 11 月上旬に開催され、複数のコンサート会場や店舗、施設をめぐるイベント

- ・「くるめ街かど音楽祭」
- ・「草野まちかど博物館」

会場の移動手段としては距離や手軽さから自転車が適しており、この2つのイベントを「ツール・ド・久留米」とのコラボレーションイベントとして同日開催し、互いにPRすることで、自転車活用による市内の回遊性を高める。

<『久留米・自転車の日』モデルコース(案)>

1日目

「ツール・ド・久留米」レース スタート応援（百年公園）⇒ 百年公園サイクリングセンター（レンタサイクル）⇒ 筑後川～草野へ ⇒ 「草野まちかど博物館」めぐり・ランチ ⇒ 久留米市世界のつばき館（自転車返却）⇒ 草野バス停から西鉄バスで西鉄久留米へ ⇒ 久留米市街地「街かど音楽祭」ジャズライブ ⇒ 久留米屋台ラーメン ⇒ 帰宅

2日目

JR久留米駅（レンタサイクル）⇒ 坂本繁二郎生家「街かど音楽祭」コンサート ⇒ 青木繁旧居「街かど音楽祭」コンサート ⇒ 市街地の名店でランチ ⇒ 「サイクルフェスタ」トークショー、自転車健康教室、自転車試乗会 ⇒ 西鉄久留米（自転車返却）

*上記モデルコース案は自転車の貸出し、返却が同一の場所以外も可能（乗り捨て可能）の場合

B. 「春夏秋冬・くるめチャリ旅」企画書

1. 事業名

「春夏秋冬・くるめチャリ旅」 <通年型事業>

2. 事業の目的

久留米の自然や歴史、文化、グルメ、季節イベント等を自転車で巡る「チャリ旅マップ」を春夏秋冬3か月ごとに作成し、四季折々の久留米の魅力をPRする。名所やイベント会場、美味しい名店をめぐるモデルコースを設定し、楽しみながら気軽に移動できる自転車の魅力を伝え、市内の回遊性を高める。

3. 自転車マップ掲載内容

- ・サイクリングモデルコース
 - ・レンタサイクル拠点
 - ・自転車店（修理など）
 - ・休憩ポイント（無料休憩所、コンビニ、公園など）
 - ・グルメ（美味しい店）
 - ・お土産品店（地場産商品など）
 - ・名所（花、神社仏閣、史跡、文化施設、レジャー施設など）
 - ・イベントカレンダー
- * 競輪・サイクルファミリーパーク等のイベント、市内各地の祭り・イベントなど

4. 応募型付随企画

①サイクリングスタンプラリー

チャリ旅マップ上のチェックポイントで、スタンプを集めて応募すると、久留米の魅力グッズを抽選でプレゼント

②チャリ旅 俳句・写真募集

自転車の旅や久留米の街の魅力をテーマにした俳句及び写真を募集し、応募作品の中から優秀作品には久留米の魅力グッズをプレゼント。優秀作品は市内の施設やイベント会場で展示するほか、ホームページ等でも紹介する。

5. モデルコース（案）

①つつじとバラとグルメめぐり <春>

百年公園サイクリングセンター（レンタサイクル） ⇒ つつじまつり（百年公園） ⇒ 五穀神社 ⇒ 大砲ラーメン本店(昼食) ⇒ バラフェア(文化センター) ⇒ 銀のすぷーん（お土産スイーツ購入） ⇒ 百年公園サイクリングセンター（自転車返却）

②旬の巨峰狩りとアスレチックを満喫 <夏>

J R 田主丸駅（レンタサイクル） ⇒ 石垣山観音寺 ⇒ トリムパーク（アスレチック） ⇒ 巨峰ワイン（ランチ&巨峰ソフト） ⇒ 巨峰狩り ⇒ 樹蘭(お土産フルーツパイ購入) ⇒ J R 田主丸駅（自転車返却）

③初秋の善導寺界限と北野コスモス街道をゆく <秋>

ふれあい農業公園（レンタサイクル） ⇒ 善導寺 ⇒ 大城橋 ⇒ 北野天満宮 ⇒ 山口酒造場（蔵見学&ランチ） ⇒ コスモス街道 ⇒ 宮の陣（パン屋でお土産購入） ⇒ 百年公園サイクリングセンター（自転車返却）

④ツバキ鑑賞と草野の町並みめぐり <冬～春>

山辺道文化会館（レンタサイクル） ⇒ 久留米市世界のつばき館（温室） ⇒ 矢作町並み散策 ⇒ 久留米つばき園 ⇒ 食事処なかの（ランチ） ⇒ 草野歴史資料館 ⇒ 須佐能袁神社 ⇒ 草野町並み保存地区散策 ⇒ ギャラリー山帰来（カフェ） ⇒ 山辺道文化会館（自転車返却）

⑤幸せのお地藏さんめぐり

J R久留米（レンタサイクル） ⇒ 長門石の地藏 ⇒ 京町日輪寺地藏 ⇒ 津福地藏堂 ⇒ 称名院の地藏 ⇒ 中島の地藏 ⇒ 大善寺のうなぎ（ランチ） ⇒ 白口の地藏 ⇒ 寺町医王寺地藏 ⇒ 寺町遍照院地藏 ⇒ 西鉄久留米（自転車返却）

⑥古道を走る

西鉄久留米駅（レンタサイクル） ⇒ 八つ墓 ⇒ 田中久重旧家跡 ⇒ 井上传生家 ⇒ 五穀神社 ⇒ 五穀神社石橋 ⇒ げずのき橋 ⇒ 弓矢店 ⇒ 高良川橋 ⇒ 風水神社 ⇒ 千本杉跡碑 ⇒ 南筑高校 ⇒ 府中（坊津街道） ⇒ 豊後街道 ⇒ 神代渡し ⇒ 宮の陣渡し ⇒ 西鉄久留米駅（自転車返却）

⑦からくり儀右衛門と井上传をめぐる

西鉄久留米駅（レンタサイクル） ⇒ 田中久重生家跡碑 ⇒ 五穀神社（久重と伝の胸像） ⇒ 南薫製鉄所 ⇒ 府中製鉄所（大銃場） ⇒ 地場産久留米（井上传の餅見学） ⇒ 百年公園サイクリングセンター（自転車返却）

⑧近代・現代の建築遺産をめぐる

西鉄久留米駅（レンタサイクル） ⇒ 諏訪野町号砲台 ⇒ 国武緋倉庫 ⇒ ルーテル教会 ⇒ 寺町千栄寺本堂 ⇒ 寺町徳雲寺本堂 ⇒ 青木醤油屋 ⇒ 西鉄久留米（自転車返却）

*上記モデルコース案は自転車の貸出し、返却が同一の場所以外も可能（乗り捨て可能）の場合

取組を進める上での役割分担

「自転車の街づくり実行委員会
又は事務局(仮)」

- ・イベントの参加者募集、実施
- ・ルート、マップ作成など

関係団体等

市民

- ・イベントの運営補助等
- ・ボランティア

行政

- ・事業への予算補助
- ・施設・会場の提供、行政手続き
- ・イベント間の調整、プロモーション活動等



イメージ図

“自転車の街・久留米”により期待される効果

- ① 全国からの集客が期待できるコンベンション
- ② “自転車の街・久留米”が定着。知名度と好感度の向上
- ③ 名所、イベント間の回遊性の向上。新たな名所・宝の発掘
- ④ グルメ情報の充実
- ⑤ 市民の健康意識の向上
- ⑥ 市内自転車関連事業の活性化
- ⑦ 地場産業とのコラボレーション
(自転車 × ゴム・靴メーカー、絣・繊維産業など)
- ⑧ 競輪事業の理解促進 → 競輪事業の収益向上
⇒ “自転車の街・久留米”づくりの設備投資や事業充実のための財源へ

“自転車の街・久留米”に向けた課題

- ① サイクリングロード及び駐輪場等のインフラ整備
- ② レンタサイクルの利便性向上
 - ・ レンタサイクル拠点の増加。拠点間は乗り捨て可能に
 - ・ 自転車保有台数増加と車種の充実(電動自転車など)
- ③ 他の交通機関との連携
 - ・ 「ルール&サイクル」「バス&サイクル」「パーク(自家用車)&サイクル」等、レンタサイクル拠点までの交通手段の提案
- ④ 市内自転車店との連携
 - ・ 自転車店を“街のチャリステーション”に。休憩所、カフェ機能も
- ⑤ 久留米競輪との連携
 - ・ 久留米競輪場を多世代が楽しめるレジャー施設に。サイクルファミリーパークとの連携強化
- ⑥ 市民ボランティアの育成（マップ作り、イベント補助など）
- ⑦ 自転車愛好家が集う交流の場づくり

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	市民参画による 久留米市の魅力発信の仕組みづくり
リーダー 氏名	矢次 恵美子	ワーキングメンバー 氏名	木本 洋輔、半田 啓祐、 中園 健太、秋山 太
①	提案分野 [対応すべき課題]	市民と行政が協働する情報発信の手段（ツール・場）を考える	
	現状・問題点	<p>▽現在の「情報発信」は、行政→市民・市外 など、一方向になりがち。</p> <p>▽市民が持っている多くの情報を効果的に吸い上げていない。</p> <p>▽ネットを活用すると、炎上対策など管理が必要。</p> <p>▽市が主体で行う情報発信は、運用にさまざまな制約がある。</p> <p>▽人それぞれに欲しい情報が違い、それに対応するツールがない。</p> <p>▽時代や社会情勢に応じて「効果的な」ツール・場は流動的。しかし、それに対応できていない。</p> <p>▽PR をやっても、そのものが知られていない。</p>	
	達成を目指す 姿・状況	市民の力を最大限に効果的に生かしていく仕組みをつくり、運営を継続させる	
②	提案する取 組み(事業)	<u>WEB 環境を活用した市民主体の情報発信の場づくり</u>	
	取組み(事 業)の内容	<p>○「フェイスブック」を情報収集・発信の舞台として、「市民記者」が発信主体となる仕組みをつくる。ただし、手法は継続して検討し、時代に応じた手法に柔軟に切り替える。</p> <p>○ジャンルごとのページを立ち上げて、関連団体にページの運営を委託。</p> <p>○市民・関係団体・行政で「検討組織」を立ち上げ、情報発信の活性化手法や継続していくための仕掛けなどを、常に検討していく。</p> <p>※詳細は、別紙①、②、③のとおり</p>	
③	②の取組み を進める上 での市民、 関係団体 等、行政 の役割分担	<p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックのアカウント登録→興味のあるページに「いいね！」を押す ・関連する題材の情報をページに「市民記者」として投稿 ・他の市民記者が投稿した題材に関して、自分が持っている情報を追加で掲載 ・検討組織への参加 <p>関係団体等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連するフェイスブックページの管理と活性化への仕掛け（受託契約） ・検討組織への参加 <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスブックページ、ポータルサイトの開設、広報・PR 活動 ・この取組みで集まった情報を、別の媒体（広報紙など）に効果的に活用 ・関係団体への管理運営委託契約及び費用負担 ・検討組織の設置、運営に関する事務処理 ・検討組織への参加 	

【別紙①】 取り組みの内容

1. 事業の概要

○情報発信の場として、「フェイスブック」を活用。

→フェイスブックという手法のメリット

- ①導入費用が¥0-
- ②「いいね！」をしている人＝市民記者から、その友人にページの存在や投稿の情報が広がり、拡散性も高い
- ③スマートフォンにも適していて、外出中や移動中にスムーズに情報が取れる
- ④「プッシュ通知機能」を利用することで、新着の情報（＝旬の情報）がお知らせされる

○ジャンル（観光、グルメ、子育てなど）ごとのフェイスブックページを立ち上げる。

○立ち上げたページを、そのジャンルに関連のあるNPOなど関係団体に「管理・運営」を委託。

○情報を提供・発信する「市民記者」は、当該ページに「いいね！」を押した人とする。「いいね！」を押すことで、そのページへの投稿が可能に。

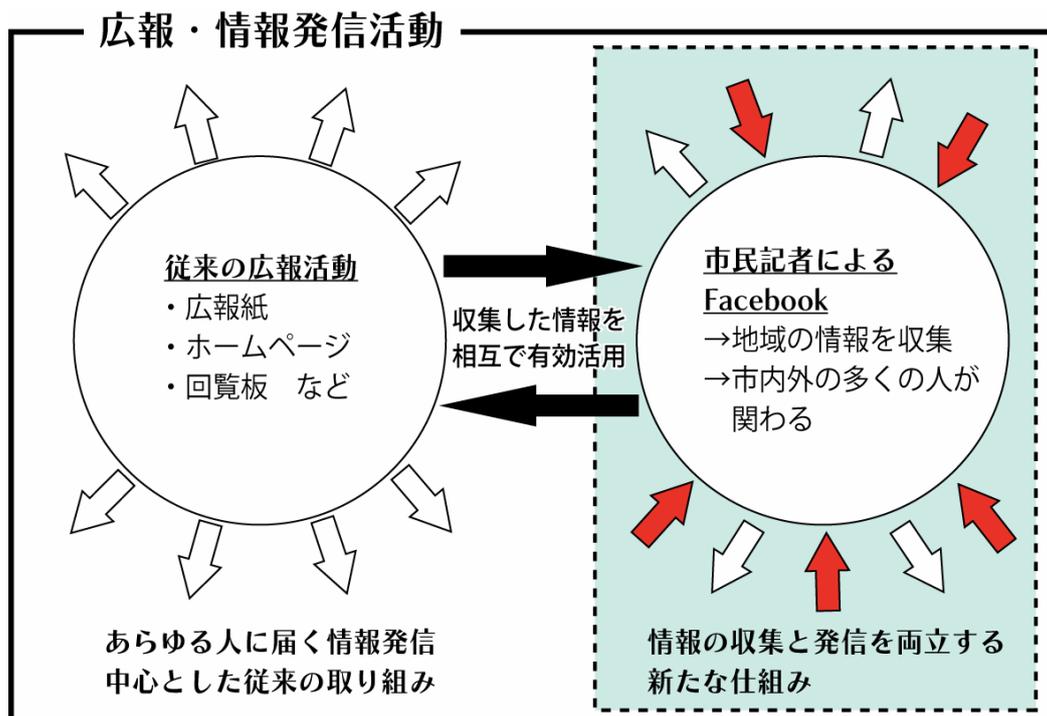
→市民記者になるためには、フェイスブックへの「アカウントの登録」という作業が必要となり、それが手間となる部分もあるが、今回の仕組みの効率性を高める（＝市民記者の情報発信量をできるだけ多くする）ためには、発信力のある人が簡単に発信できるようになる仕組みを作ることが優先させることが大切と考えて、この手法を選択する。

○ページへの話題の投稿やコメントは、管理団体・市民記者ともに行うことができる。また、そのやり取りは、全ての人が見覧可能にしておく。

○この取り組みで、「ここを見れば久留米の今の動きがわかる」と、多くの人に認識してもらえることを目標。そのため、この取り組み自体のPRにも積極的に取り組む。

○この取り組みは、「情報の収集」も大きな成果の一つと捉える。得た有用な情報を、WEB以外の媒体（広報紙など）でも発信するなど、相互有効活用の仕組みをつくる。

【参考：情報発信の概念図】



※フェイスブックの運用イメージは「別紙②」を参照。

企画・運営していくこととなるため、行政から一定の距離が生まれ、民間主導の柔軟な事業展開が期待される。

※市民記者の取り組み活性化の手法（＝仕掛け）の例としては、投稿の頻度や「いいね！」の獲得率などの成果を評価し、「市民記者番付」や「地場産品など商品提供」、「別の媒体で紹介」などが想定される。

⇒これらの運営には、事務処理や必要経費が発生する。そのため、人的・経済的負担を行政が担当することを想定している。

3. 広告手法

○仕組み自体の広報を充実。チラシやポスターを市内の各所に掲示、既存のフェイスブックでの「いいね!」「シェア」などで紹介・誘導、さらにフリーペーパーを活用し、市民記者のメインの年齢層となる「若者」を中心に認知度を上げる。費用負担は市。さらに、広報紙で、目的や機能、使い方の特集を組んで、幅広い年齢層で使ってもらえるように、きめ細やかな情報提供で環境をつくっていく。

○各分野のフェイスブックページが、相互に「いいね!」しておくことで、他のページユーザー（＝他ジャンルの市民記者）へ情報が拡散され、さらなる情報の集約が期待される。

○さらに、このフェイスブックページにアクセスしやすくするために、ポータルサイト（入口となるサイト）を作成。さらに、市の公式HPのトップにバナーを設置。初めて見る・利用する人も、パソコンやスマートフォンから簡単にアクセスできるようにする。

4. 必要経費の概算

○フェイスブックの導入費用

→無料

○ポータルサイト設立に要する費用

→ページ作成委託料：600,000円（同程度の構成のHP作成委託料を参考に算出）

→ページ・サーバー管理料（次年度以降）：240,000円

○広告費

→チラシ・ポスター印刷費：A4チラシ@1.5*128,000世帯＝192,000円

A2ポスター@300*500枚＝150,000円

→全世帯配送委託料：160,000円（広報紙との同送に要する費用）

→フリーペーパーへの広告掲載料：1/2ページ@150,000*4回/年＝600,000円

※2年度目からは、チラシとポスターの作成・配布のみ

○委託料（ページを4つ設立する場合）

→フェイスブック管理運営委託料：（@800,000円/年*4団体）+10%＝2,640,000円

※単価積算は、管理運營業務量を、1名が業務の1/4程度を占めると仮定。さらに関連団体で従事する職員の給与を月額約200,000円と仮定し、諸経費10%を上乗せした金額を委託料とした。

⇒（初年度）経費合計4,342,000円。（なお、次年度以降は3,382,000円）

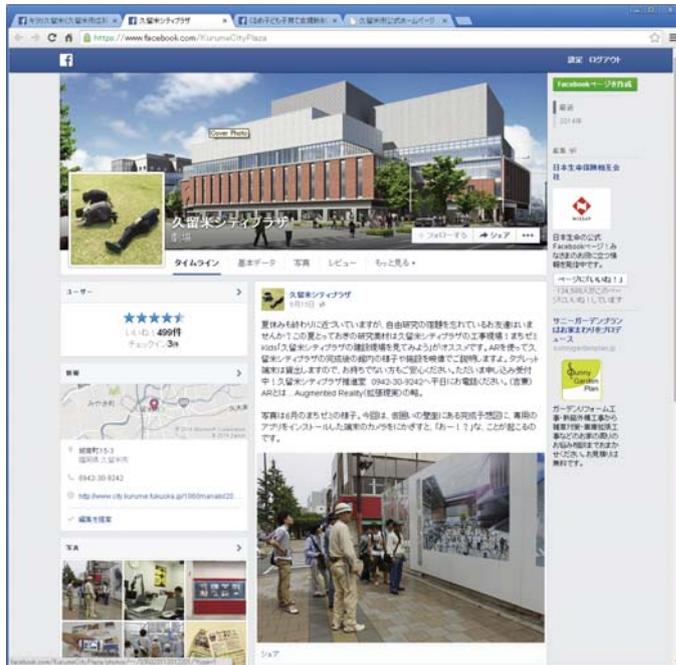
5. その他

- インターネットでの発信には、炎上対策や双方向性コミュニケーションの実現方法など多くの課題が存在することは事実。そのためにも、業務に必要な経費を市が負担し、管理運営の委託を行う形態が望ましいと考える。そうすることでほぼ専属的に従事できる体制を整え、炎上するような書き込みを随時確認・削除が可能となり、さらに必要に応じてメッセージを返信するなど、親しみやすいページづくりが可能になる。
- IT 環境を活用した取り組みに対する意見として、「高齢者などをおざなりにしてはいないか」といったものが出る可能性がある。しかし、今回の提案はあくまでも「情報発信の仕組みづくり」であり、これまでの広報手段の限定や見直しではない。つまり、情報発信・収集の両面で、その手段が一つ増えたということであり、一部の市民に不利益を科しているものではない。さらに、インターネットの閲覧ができれば簡単に情報に行き着く仕組み（ポータルサイト）を作るため、ある程度広い間口を確保できている。
- 検討組織の運営については、①継続性、②実効性 を確保することが大切。そのためには、行政の一部局を担当として明確にし、さらに一定の要員を配置。検討組織などを機能させるために、十分な体制をとる必要がある。
- 刻々と変わる情報社会では、妥当なツールや仕組みの見直しを、継続して行っていくことが肝心となる。

【別紙②】市が運営しているフェイスブック

市公式フェイスブック・キラリ久留米
担当課：総合政策部広報課

久留米シティプラザフェイスブック
担当課：市民文化部 久留米シティプラザ推進室



くるめ子育て支援新制度フェイスブック
担当課：子ども未来部



※いずれのページもリアクションはなし
→双方向性のコミュニケーションには
まだ踏み出せていない。

※公式フェイスブックは、市の魅力や動き
催しなどの情報を幅広く提供。シティプラ
ザと、子ども子育て支援新制度のペー
ジは、各事業に関連する情報を提供。
→分野(ジャンル)に特化したページ
が存在していない。

【別紙③】新設するフェイスブックのイメージ

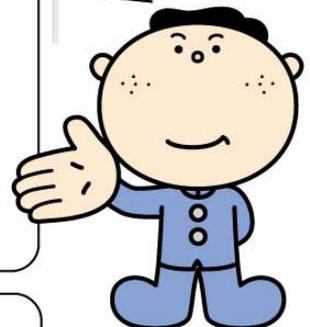


久留米 * グルメ
事務局

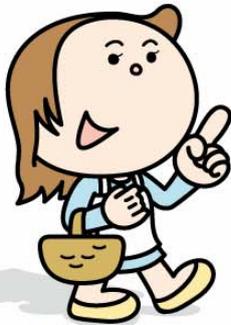
来月●●日(日)に、シティプラザで
久留米出身の人気デュオ△○△
のライブが決まったよ！！

ほんとに！？

この2人とは、同級生なんだ。●
× 中学校時代に一緒に、当時か
らすごく歌がうまかったんだ。見
に行かないと！！

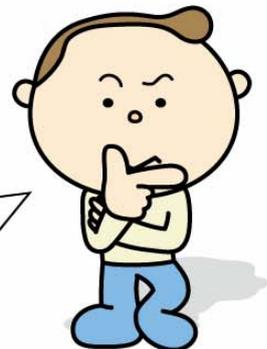


市民記者



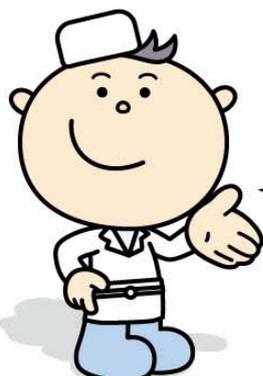
市民記者

あ！！
Youtube で、この2人のデ
ビュー当時の映像があったよ！
<http://www.●●●●●●>



市民記者

地元のアーティストいいよね～。
まちが盛り上がってるって感じ！



市民記者

久留米を盛り上げてるといえば、
この動画があるばい。見てみて！
<http://www.●●●●●●>

次期基本計画・協働ワーキング提案概要書

③多様な主体が魅力を発信するチーム

提出年月日	平成 26 年 8 月 29 日	ワーキング テーマ	市民参画による久留米市の魅力発信の仕組みづくり
リーダー 氏名	大塚 美樹	ワーキングメンバー 氏名	大塚 美樹（リーダー）、京野 利勇（サブリーダー）、廣岡 睦、野村 真弓、山浦 芳樹
①	提案分野 [対応すべき課題]	<ul style="list-style-type: none"> ・発信力の強い若者・大学生たちが“市”に興味を持つ仕掛けづくり ・機械に不慣れな人も情報発信できる仕組みづくり 	
	現状・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・若者は様々なツール（FB、ブログ、twitter など）を使いこなしているが、そもそも久留米市に愛着が薄いので、久留米の情報を外に発信しようと思わない。 ・多くの知識を持っていて情報を発信したいと思っている人は多いが、様々なツールが多すぎて、着いて行けない。 	
	達成を目指す 姿・状況	誰もがまちの魅力を発信できる場に、身近にアクセスできる久留米市	
②	提案する取 組み(事業)	久留米の魅力に「気づく・共に伝える」	
	取組み(事 業)の内容	<p>≪Step 1≫若者の興味心向上にむけた取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 集客力のある施設（商業施設・飲食店）や学校内に広報誌や PR ポスターを設置して露出度を高めるとともに、市の取組みや魅力の PR 機会として市内の学園祭に積極的に参加し、若者に興味・関心を持ってもらう。 ② 小・中・高校それぞれの段階に合わせて体験交流ができる研修メニューを造成し、教育の一環として地元久留米の地域資源を学び、自身で考える時間を設けることで、幼少期からの郷土愛の醸成を育む。また、働く場としての久留米の魅力を知る機会として、地場企業を対象としたインターンシッププログラムを造成し、大学生向けのメニューとして提供する。【添付資料①参照】 ③ 人手不足に悩む地域行事（祭事限定）を安定的に運営する手法として、手助けが必要な年間行事を集約し、行事概要や支援依頼内容等を Web サイト上で一括して確認・申し込みのできる人材支援登録制度「お祭り BANK」を立ち上げる。【添付資料②参照】 <p>≪Step 2≫オール市民による情報発信の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 「みんくる」の交流スペースに、WiFi環境の整備・タブレット端末の貸出しサービス・全2面ホワイトボードの設置を行い、情報発信拠点として活用できるサロンとして機能を拡充させる。さらに、事務所スペースは、市民が自由に情報発信できる電子掲示板を新設し、パンフレット掲示コーナーのリニューアルも行う。また、利用は有料会員制とした上で、会員特典や高齢者の利用サポート体制をつくり、誰もが利用しやすい環境を整えて、利用世代毎に合わせた積極的なPRを行う。【添付資料③参照】 ② 大学生向けの久留米紹介ガイドブックを、市内各大学の生徒で組織を作って共同制作し、入学式やオープンキャンパスの際に配布する。【添付資料④参照】 ③ 広報くるめに市民枠を設け、読み手の興味を引く企画を市民自身で立案・編集してもらう。【添付資料⑤参照】 ④ 一般公募により厳選した15名を大使として1年間委嘱し、市公式HP内に大使専用Facebookページを設けて積極的に情報発信してもらう（ノルマ有り）と同時に、情報発信サロンへの定期利用や観光キャンペーン等への参加を通じて、大使の顔と活動が多くの人に見えるような仕組みをつくる。【添付資料⑥参照】 	

<p>②の取り組みを進める上で ③の市民、関係団体等、行政の役割分担</p>	<p style="text-align: center;">《Step 1》①</p> <p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久留米が持つ地域資源や取り組みに対して、今以上に関心を向ける。 <p>関係団体等（施設、学園祭実行委員会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置協力施設・学校側は、人の目に付くようにレイアウトを工夫する。 ・学園祭での久留米 PR ブースの設置、ステージでの PR タイムの確保等に協力する。 <p>行政（市、外郭団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスターや広報誌を設置してもらえるよう、各施設・学校に交渉する。 ・学園祭での PR に向けた関連部局への協力要請と企画の調整を行う。
	<p style="text-align: center;">《Step 1》②</p> <p>市民（受入れ企業、学生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業企画の趣旨を理解し、プログラムづくり、参加者受け入れに協力する。 <p>【大学生向けインターンシッププログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生は、インターンシッププログラムに参加申込みを行う。 <p>関係団体等（NPO 法人、商工団体、コンソーシアム）</p> <p>【小・中・高校生向け体験交流プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO 法人は、市内小・中・高の体験授業の現状を踏まえた上で、久留米の魅力に触れられる教育版体験交流プログラムを複数づくり、総合的に年間を通じて体験できるメニューとして学校に提供する。 <p>【大学生向けインターンシッププログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工団体は、団体に加入している企業に対して、インターンシッププログラム造成の営業を行い、賛同企業をコンソーシアム久留米に紹介する。 ・コンソーシアム久留米は、企業へのアドバイス、コーディネートを通してプログラムを造成し、学生に向けて情報提供を行い、地場企業と学生のマッチングを行う。 <p>行政（市、学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市はこれらのプログラムの周知に協力する。 ・プログラム造成に係る費用の財政支援を行う。 <p>【小・中・高校生向け体験交流プログラム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校側は、体験交流プログラムを教育カリキュラムとして積極的に活用し、体験したことが子どもに蓄積されていくための仕組みを考える。
	<p style="text-align: center;">《Step 1》③</p> <p>市民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お祭り BANK」に登録し、地域行事の担い手として支援を行う。 ・支援した人は「お祭り BANK」に感想や評価をコメントし、周りにも参加の呼び掛けを行って支援の輪を広げる。 <p>関係団体等（まちづくり振興会、まちづくり連絡協議会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校区まちづくり振興会は支援を必要とする地域行事の吸い上げを行い、情報をまちづくり連絡協議会へ提供する。 ・まちづくり連絡協議会は支援サイト「お祭り BANK」の運営、周知（特に若者の積極的参加を促すため大学への協力依頼）を行う。 ・祭りの実施者は、支援者に対して事前説明会を実施し、行事趣旨や支援依頼内容をしっかりと説明すると共に、支援後のお礼としての「ほとめき」を考え、提供する。 <p>行政（市、外郭団体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お祭り BANK」運営における財政支援を行う。 ・HP にリンクバナーを貼り付けるなどして「お祭り BANK」の周知に協力する。

《Step 2》①

市民

- ・情報発信サロンの会員となり、施設内の機器を利用して自由に情報を発信し、周囲への普及宣伝も行う。
- ・情報発信サロン内で他利用者と会話をするように心がける。特に、PCの操作に困っている人を見かけたら、分かる人は積極的に手助けをする。
- ・自身が掲載したいパンフレットを持込み、事務局を通じてパンフレットコーナーに掲示してもらう。

関係団体等（みんくる、大学）

- ・運営主体である「みんくる」は、交流スペースを改修し、情報発信サロンとして整備する。また、利用料金の徴収をはじめとした適正な運営を行い、サロンの利用促進に向けたPRも積極的に行う。
- ・学生に対してサロンの周知を図るため、大学に協力を求める。
- ・会員にとって魅力的なWS企画を考え、定期的を開催する。

行政（市）

- ・ICT機器の購入費、交流スペースの改修費、運営の財政支援を行う。
- ・広報くめや市HPで情報発信サロンのオープンをPRする。

《Step 2》②

市民（大学生、取材先）

- ・大学生は、大学が募集するガイドブック製作実行委員に応募する。
- ・実行委員会から取材依頼のあった店舗や人は積極的に取材に応じる。
- ・ガイドブックに掲載してほしい場所等のアンケートがあった場合は、5大学の生徒は協力する。
- ・新入生は受け取ったガイドブックを積極的に活用する。

関係団体等（実行委員会、大学、コンソーシアム、掲載店舗）

- ・大学は、実行委員会の立ち上げにあたって委員の募集を行う。
- ・実行委員会はガイドブックの企画検討から取材、発行までを行い、コンソーシアム久留米が実行委員会事務局として活動のサポートを行う。
- ・大学はガイドブックを入学式やオープンキャンパスで配布することで活用を促す。
- ・掲載店舗は、ガイドブックの利用特典を用意する。
- ・実行委員会は大学と協力して、次期実行委員の確保に向けた宣伝活動を行う。

行政（市、外郭団体）

- ・市内5大学へ事業趣旨を説明し、ガイドブック製作実行委員会の立ち上げを依頼する。
- ・立ち上がった実行委員会が軌道に乗るまで、アドバイザー派遣等を通してサポートを行う。
- ・ガイドブックの製作に必要な情報の提供等を実行委員会に対して行う。
- ・ガイドブック製作のための取材費用、印刷・発行に係る財政支援を行う。

《Step 2》③

市民（市民リポーター、取材先）

- ・市民リポーターに応募し、久留米の魅力発信を行う。
- ・市民リポーターは自覚と責任を持って自身で取材を行い、読み手が興味を引くような執筆を心がける。
- ・執筆したリポーターは、周りをもっと広報誌に関心を持つよう、自身の記事を基に積極的にPRし、次年度以降の市民リポーター候補者発掘に努める。
- ・取材を依頼された当事者は積極的に受入れる。

関係団体等（公益団体）

- ・コミュニティセンターや学校などの公益団体は、市民リポーターの募集チラシを掲示、配布するなどして、積極的に広報宣伝に協力する。

行政（市）

- ・広報誌、市HP、FMラジオ等で市民リポーター募集のPRを行うと共に、若者の応募も促すため、高校や大学にも周知を図る。
- ・広報誌への執筆にあたって、文章の構成や読み手に伝わる書き方等のポイントを教えるための研修を実施する。
- ・市民リポーターが執筆した原稿のチェック、アドバイスを行う。

《Step 2》④

市民（大使）

- ・大使への応募・就任を通じて、「On Time 久留米（仮）」をテーマとして、久留米の魅力を発信し宣伝活動に努める。
- ・15人の大使はローテーションを組んで月2回／人の情報発信をノルマとして課し、1日1回は「大使の部屋（Facebook ページ）」の情報が更新されるようにする。さらに、大使には情報発信サロンを定期的にご利用してもらう。
- ・市民（大使を含む）は、大使の発信媒体となるFacebook ページの投稿をシェアし、「いいね！」を押すことでより多くの人が見るように工夫する。

関係団体等（外郭団体）

- ・外郭団体は、大使募集PRへの協力をを行い、「大使の部屋」の運用開始後は、HP上にリンクバナーを貼る。
- ・大使就任にあたって実施する研修に対して、情報提供や講師としての協力をを行う。

行政（市）

- ・大使制度の運用にあたって、募集→選定→研修→認定という1年サイクルの制度を確立させ、希望者には2年目以降も研修を経てた上での更新を認める。
- ・大使の活動媒体となる「大使の部屋」を市HP内に整備する。
- ・広報誌、市HP、FMラジオ等で大使募集のPRを積極的に行う。
- ・大使の掲載情報が適切なものであるかのチェックと、活動状況（更新頻度、サロン利用状況）の定期確認を行う。
- ・年1～2回程度、大使同士の交流を図るための企画を行う。

* 各欄の記載内容の詳細な説明は、別に資料として添付してください。

《Step 1》若者の興味心向上に向けた取り組み②

体験交流型研修・インターンシッププログラム概要

【趣 旨】

小・中・高校それぞれの段階に合わせて体験交流ができる研修メニューを造成し、教育の中で地元久留米の地域資源を学び、幼少期からの郷土愛の醸成を育む。また、大学生向けのメニューとして、地場企業を対象としたインターンシッププログラムを提供することで、働く場としての久留米の魅力を伝える機会を設ける。

【方 法】

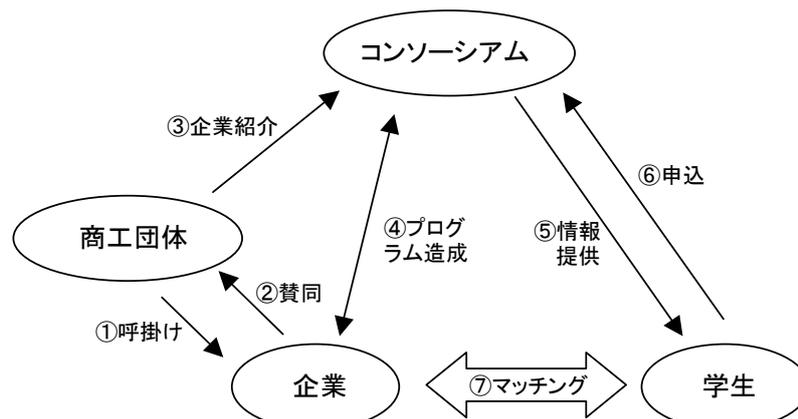
小・中・高校生向け体験交流型研修

- ① 市内の各小・中・高校が現在行っている体験型授業の内容や規模、頻度等を洗い出す。
- ② 体験交流型プログラムを実施し、実績のあるNPO法人と協力して、学校向けに提供できる教育に重点を置いたプログラムの造成を行う。
- ③ 造成したプログラムをメニュー化し、教育カリキュラムとして積極的に活用するよう学校に対してPRを行う。

大学生向けインターンプログラム

- ① 学生向けインターンシップの対象企業は、市内の商工団体に加入する地場企業とする。
- ② プログラム造成におけるコーディネート、学生へのプログラム提供は「高等教育コンソーシアム久留米」が主体となっており、HP内に専用サイトを立ち上げて志願者と企業のマッチングを行う。また、インターンシッププログラム造成に向けた地場企業への参加呼びかけは、商工団体が中心となる。
- ③ インターンシップの開催時期は一般的な実施期間である夏場をあえて避けて、5月開催とすることで、より多くの学生に働く場としての久留米の魅力を体験してもらう。

【インターンシッププログラム スキーム図】



≪Step 1≫若者の興味心向上に向けた取り組み③

人材支援登録制度「お祭りBANK」概要

【趣 旨】

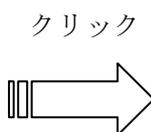
高齢化と若年者の地域離れによって、地域行事の継続的な運営に支障をきたしている地域が散見される中で、市民が地域行事の支援者として参加できる体制を作り、地域の魅力に触れてもらうと同時に、行事の安定的な運営につなげていく。

【方 法】

- ① 各校区まちづくり振興会が中心となり、人材支援を必要としている年間の地域行事の洗い出しを行う。
※ 若者が気軽に参加でき、地域の魅力を知ってもらう機会とするため、対象行事は祭事のみとする。
- ② 久留米市校区まちづくり連絡協議会の公式 HP 内に、人材支援登録サイト「お祭りBANK」を立ち上げ、行事内容・魅力、支援してほしい内容、人数など必要事項をまとめ、年間を通じて支援を必要とする行事が総合的に確認できるようにする。
- ③ 支援者がインターネット上で簡単に支援登録できるような仕組み（スマートフォン対応仕様）を構築する。
- ④ 行事の各実施者側は、支援者に対して事前説明会を実施し、お礼として、自身で継続して出来る限りの「ほとめき（おもてなし）」を考え、当日支援いただいた人に提供する。
- ⑤ 支援した者は、参加した感想や評価を「お祭りBANK」に投稿する。
- ⑥ 市をはじめとした公益団体 HP 上に「お祭りBANK」のバナーリンクを貼ってもらい、より多くの人に見てもらえるようにすると同時に、本制度のメインターゲットを若者とするため、大学などの教育機関への周知を重点的に行う。

【イメージ図】

	月	火	水	木	金	土	日
9 月	1	2	3	4	5	6	7 ○○祭り
	8	9 ■■祭	10	11	12 ▲▲花火	13	14 ▲▲大会
	15	16	17 ××大会	18	19	20	21 ○○フェスタ
	22	23	24	25	26	27 ■■踊り	28
	29 ▲▲まつり	30					



支援内容：神輿の担ぎ手

時 間：13時～19時

必要人数：10人（残り4人）

行事内容：S30年に復活した伝統行事。200人の行列が無病息災を願って町内を神輿とともに廻る。

写 真：こちらをクリック

ほとめき：地元の食材を使った夕飯の提供

この行事を支援する

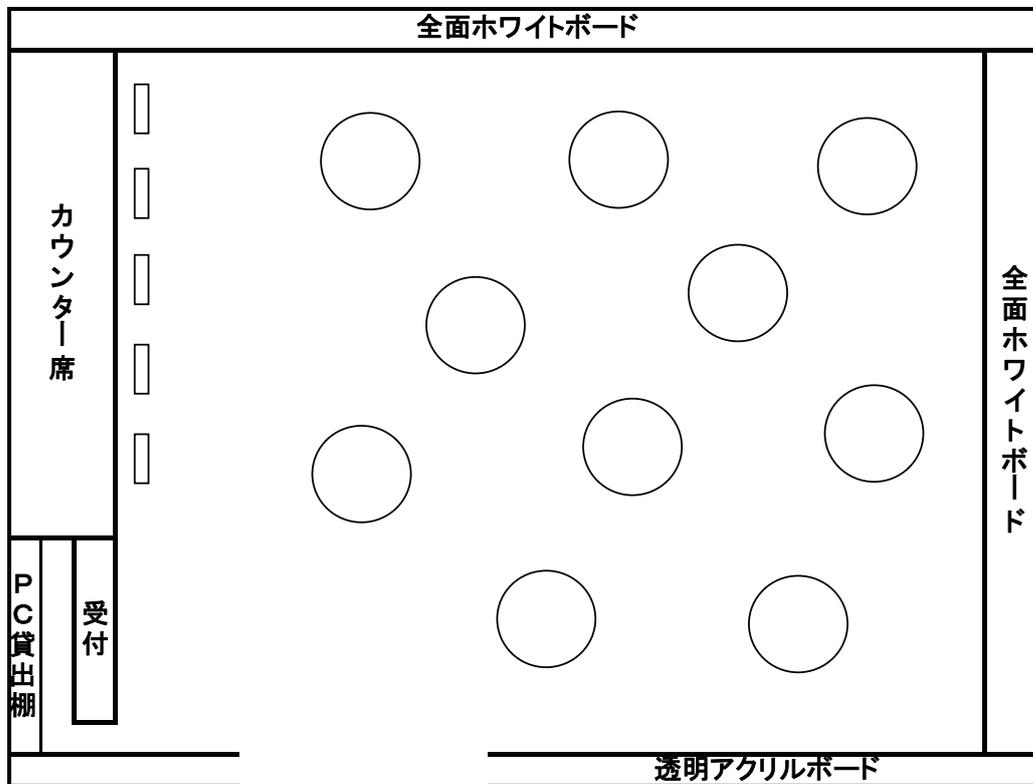
《Step 2》オール市民による情報発信の取り組み①

情報発信サロン概要

【趣 旨】

市民活動サポートセンター「みんくる」が持つ「交流の場」としての従来の機能に、誰もが気軽に「情報発信できる場」としての機能を加えることで、人と人がつながり、共に情報発信を行える拠点として活用する。

【サロン イメージ図】



【利用対象（ターゲット）】

- ① 若者を含むICTをある程度使える人全般
- ② 学習意欲が高く、新しいことにチャレンジしがっているアクティブシニア層

【方 法】

- ① 「みんくる」の交流スペースに、WiFi環境の整備・タブレット端末の貸出しサービス・全2面ホワイトボードの設置を行い、情報発信の拠点となるサロンとしての機能を拡充させる。

- ② サロン内での交流の促進を図るため、私語・飲食は可能とし、利用時は名札（ニックネーム可）を着用する。
- ③ 安定的運営を目的としてサロン利用は有料会員制とした上で、会員のみを対象にしたWSの開催や割引制度などの会員特典を設けると同時に、高齢者の利用サポート体制を築き、誰もが利用しやすい環境を整える。
- ④ ICT機器の管理や受付、使用方法のアドバイス要員として、サロン内に常駐人を配置する。
- ⑤ 「みんくる」の事務所スペースには、市民が自由に情報発信できる電子掲示板を新設し、既存パンフレット掲示コーナーのリニューアルも行う。
- ⑥ 世代毎に合ったセールスポイントを強調し、積極的にPRする。

【P R】

① 若者向け

○PR 事項

- ・ 最新のICT機器が充実している。
- ・ 全2面ホワイトボード整備でサークル等のミーティングにも利用可能。

○PR 場所

- ・ コンソーシアムや大学で重点的にPRする。

② 高齢者向け

○PR 事項

- ・ その場でICTサポートサービスが受けられる。
- ・ 会員限定のワークショップに参加できる。
- ・ 若者を含めた様々な世代の人と出会え、交流ができる。

○PR 場所

- ・ 各コミュニティセンター、えーるピアで重点的にPRする。

≪Step 2≫オール市民による情報発信の取り組み②

学生がつくる久留米紹介ガイドブック概要

【趣 旨】

就学等で初めて久留米で生活を始める若者向けに、学生の視点で久留米を紹介するガイドブックを製作・配布し、久留米のまちを知り、魅力に触れるきっかけとする。

【方 法】

- ① 市内の主な教育機関である久留米大学、久留米工業大学、久留米高専、信愛女短大、聖マリア学院大の生徒たちでガイドブック製作実行委員会を立ち上げる。
- ② ガイドブックの発行は年1回とし、企画から取材、発行まで全てを実行委員会にて行う。
- ③ 実行委員は久留米についてある程度知識を持った3年生（短大は2年生）を原則とし、メンバーは毎年入れ替え制とする。
- ④ 完成したガイドブックは、各学校の入学式やオープンキャンパスの際に配布する。

【仕 様】

- ① 発 行：年1回（3月）
- ② 頁：オールカラー 30ページ程度 A5サイズ
- ③ 掲載記事：マップ、久留米の良い所・好きな所、オススメスポット・お店、観光施設（デートスポット）、穴場スポット、勉強に使える場所、集える場所（サークル活動等）、行事・イベント etc…
- ④ 特 典：掲載店舗についてはスタンプラリー形式とし、一定数溜まったら地場産品と交換できるようにするなど、一年間活用するための特典を用意する。

◀Step 2▶オール市民による情報発信の取り組み③

広報くるめ市民企画ページ概要

【趣 旨】

情報発信に高い関心を持つ人のための機会創出と、広報紙に対する市民意識の向上の手法として、広報くるめに市民自身が執筆できる枠を設け、行政とは異なる視点で久留米の魅力発信を行う。

【方 法】

- ① 広報くるめの市民企画ページ「私が見つけた、いいね！久留米」をテーマに、市民リポーターを募集する。
- ② 募集にあたっては、広報くるめや市HPでの周知の他、若年層の積極的な応募を図るため、高校や大学にも周知を行う。
- ③ 市民リポーターの任期は1年とし、年に1人1回執筆する。
- ④ 市民リポーターとして最低限必要な研修（広報記事の書き方ポイント等）を受けた後は、各自で取材対象やスケジュールを決め、取材に行ってもらおう。
- ⑤ 執筆者は顔写真と本名を文末に掲載し、やる気と責任感を持ってもらう。
- ⑥ 執筆内容の確認については、市民リポーターの文章を最大限尊重することとし、必要に応じて市にて固有名詞の確認等のチェックを行う。

【仕 様】

- ① 募集人数：12人（久留米市在住）
- ② 掲載月：月1回（1人1回執筆）
- ③ 頁：カラー 1ページ（写真入り）
- ④ 掲載記事：「私が見つけた、いいね！久留米」のテーマに合致したものであれば、個店名や特定団体を扱ったものでも認める。ただし、宗教、政治色の強いものや、明らかに営利目的なものは認めない。

◀Step 2▶オール市民による情報発信の取り組み④

情報発信大使制度概要

【趣 旨】

大使を一般公募から15名厳選し、久留米のリアルタイムな魅力を全国に向けて積極的に情報発信してもらう。

【方 法】

- ① 久留米市に在住又は通勤・通学する人を対象として、「On Time 久留米（仮）」をテーマに久留米の旬な魅力情報の発信を行ってくれる大使15名を募集する。
- ② 大使の任期は1年（更新有り）とし、就任にあたっては簡単な研修を受けてもらう。
- ③ 情報発信の主要媒体として、市公式HP内に「大使の部屋」を新設し、大使共有の公式Facebook ページを立ち上げて情報発信してもらう。
- ④ 15名の大使でローテーションを組んでFacebook ページを更新してもらい、最低でも1日1回は写真入で情報を発信するよう義務付ける。
- ⑤ 大使の情報にはリアリティを求めるため、個店名等の掲載は認めるが、1日1回行政がチェックを行い、営利目的や公序良俗に反するものは修正する。
- ⑥ 大使には、情報発信サロンの年間フリーパスを付与する代わりに、サロンを定期的に利用することを義務付ける。
- ⑦ 大使の活動と顔が外部に見えるように、「大使の部屋」内で1人ずつ顔写真入りで紹介し、地域イベントやキャンペーン活動にも積極的に参加してもらう。
- ⑧ 大使同士の情報交換を活発にするため、交流会（既存のくるめふるさと大使も含む）を開催する。

【募集要件】

- ① 募集人数：15名（久留米市在住又は通勤・通学している人（外国人可））
- ② 任 期：1年（更新有り）
- ③ 条 件：久留米に愛着があり、パソコンで情報を発信できる人
- ④ ノ ル マ：15名の中で毎日Facebook を写真付で更新すること（1人最低1回／15日）
：情報発信サロンを定期的に利用すること。
- ⑤ 特 典：情報発信サロンの年間フリーパスを与える。
：活動に対するお礼として、地場産品を贈呈する（ふるさと・くるめ応援寄付の商品中から）。